



# 遠絡統合医学

## Dコースセミナー

下位中枢性疾患の理論と臨床

講師：柯尚志医師（遠絡医学創始者）

第1日目（全4日間）

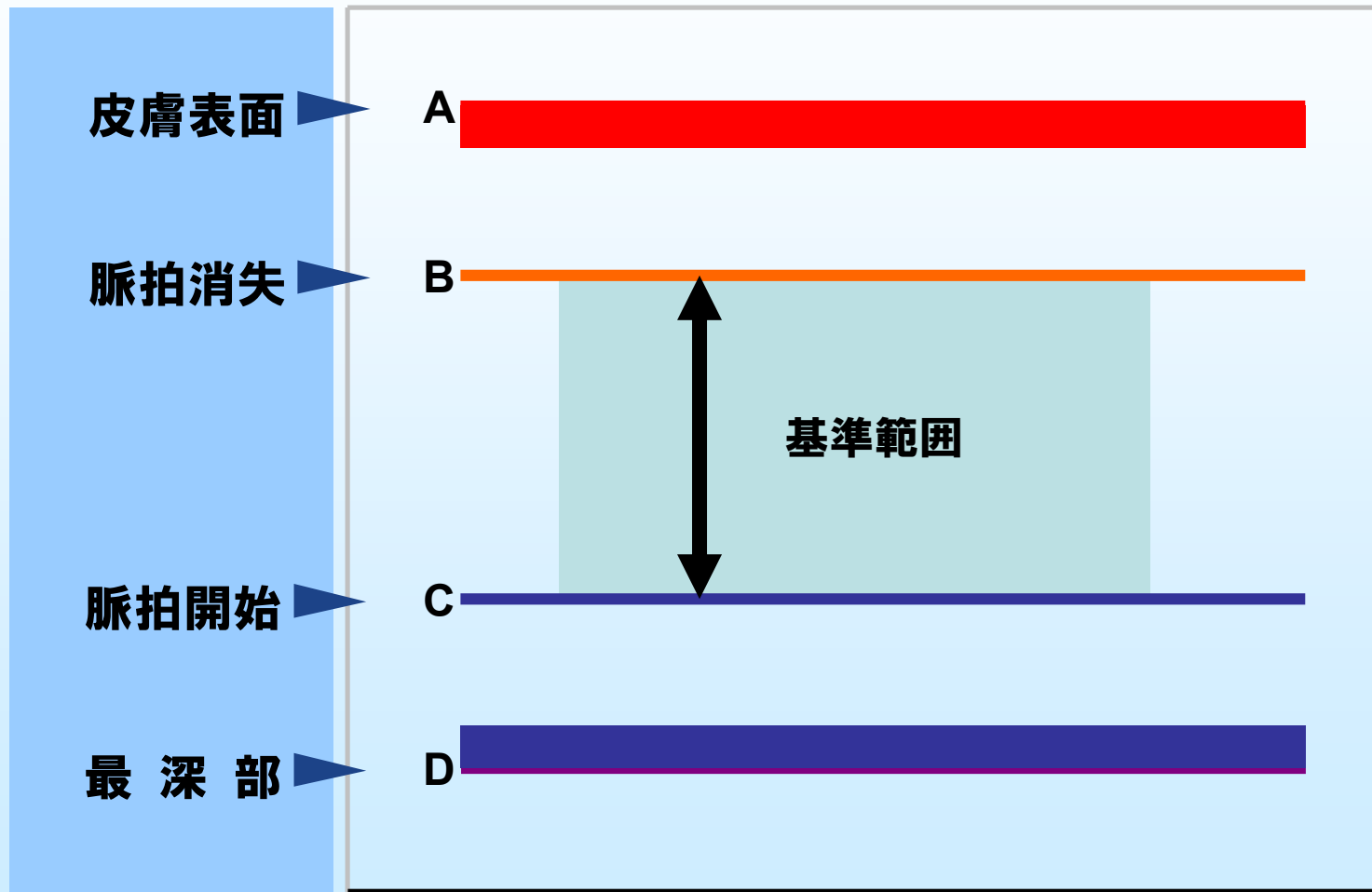
**JMAI**

一般社団法人 日本遠絡統合医学会

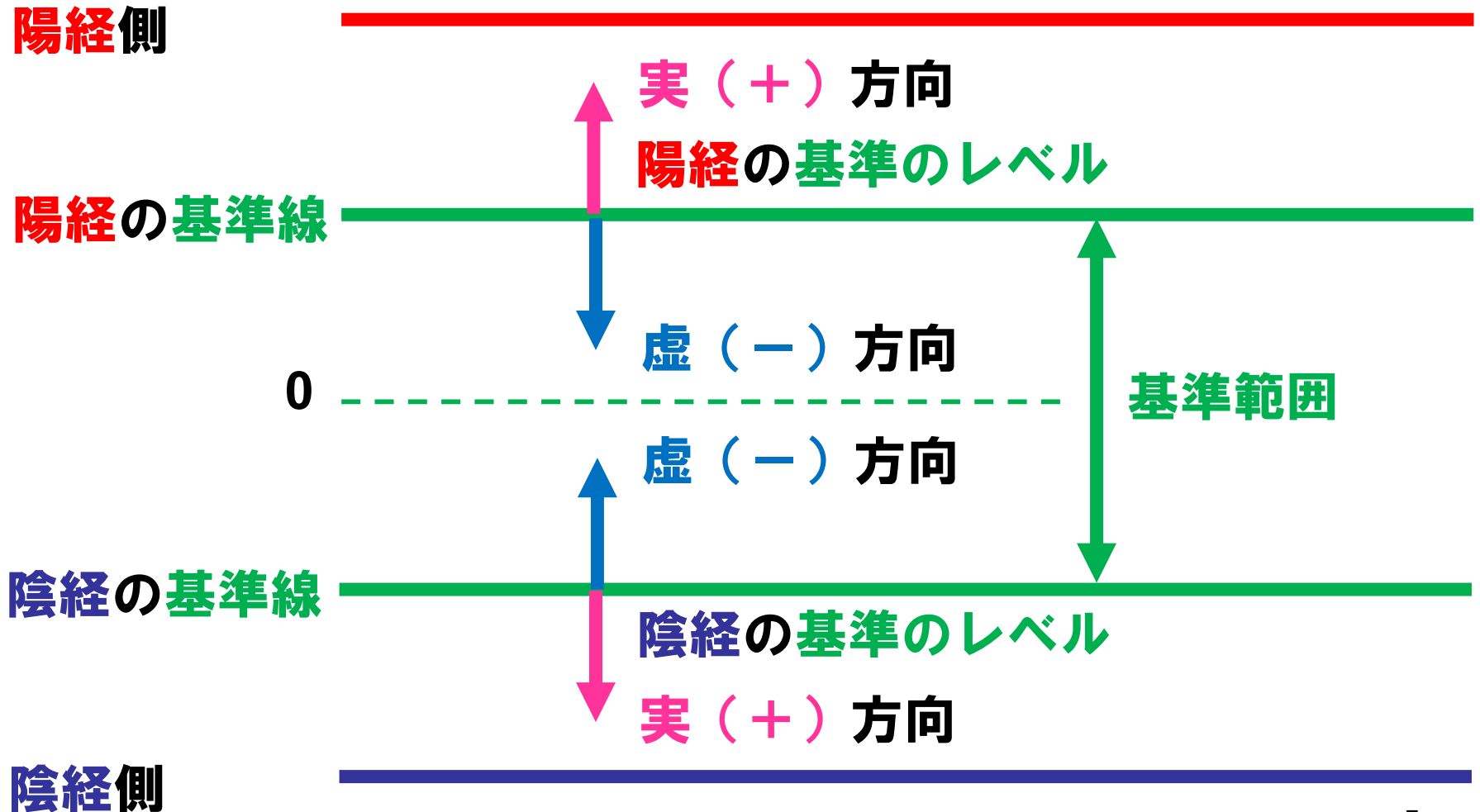
# 十二經脈变化論

陽・陰 実・虚

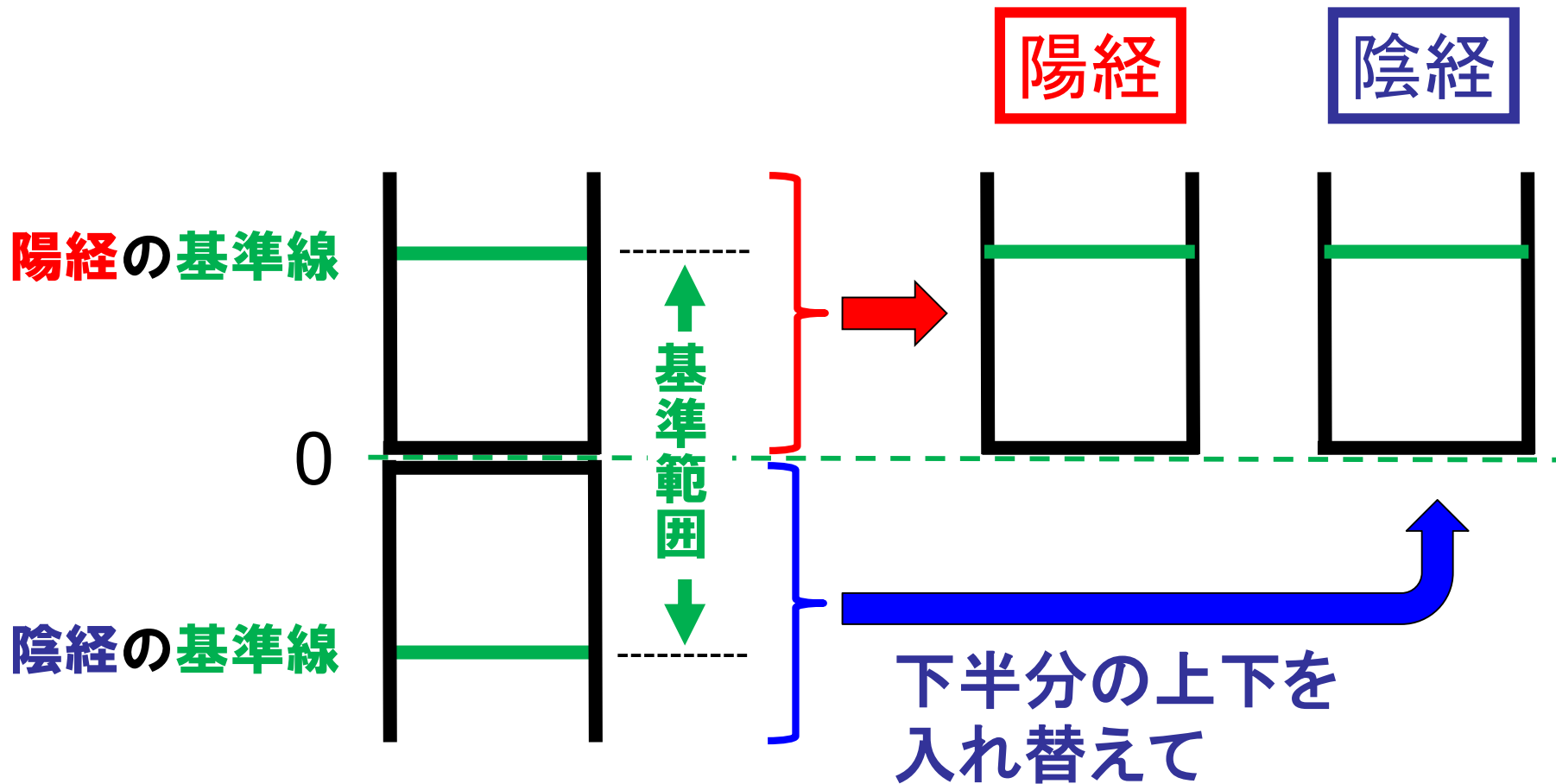
# 脈診の時：正常基準範囲



# 陽経・陰経共に正常（基準状態）



# 陽経・陰経共に正常（基準状態）

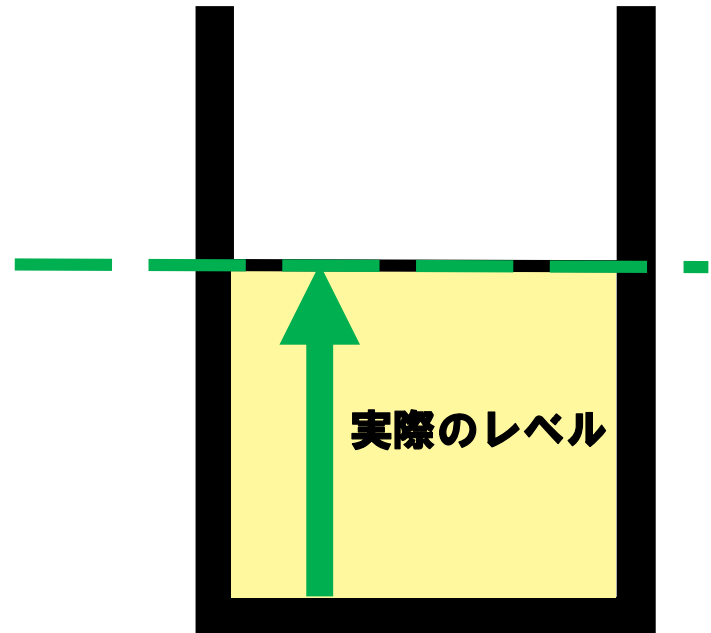
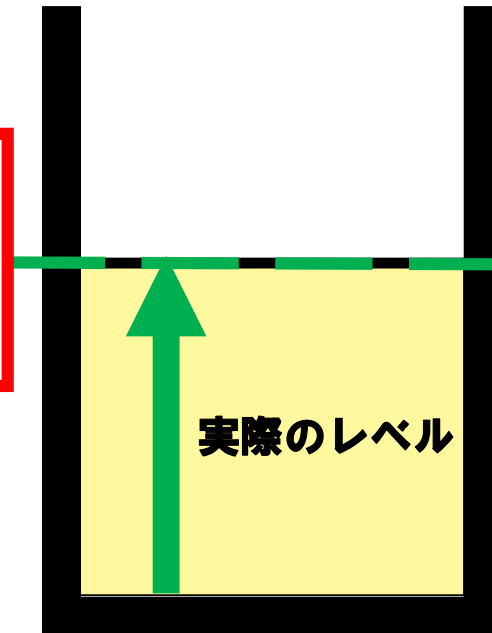


# 陽経・陰経共に正常（基準状態）

陽 経

陰 経

陽経及び陰経の  
基準ライン  
(正常)



# 実と虚

陽経側



陽経の基準線

陽経の実際のレベル (虚)

陰経の実際のレベル (虚)

陰経の基準線



陰経側

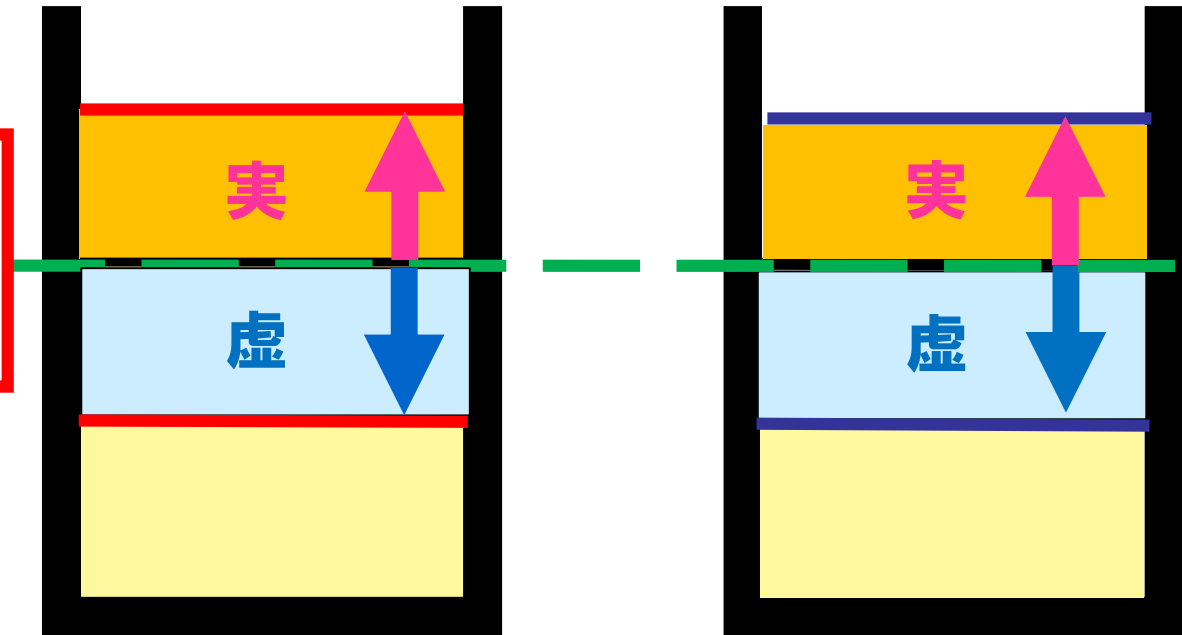


# 実と虚

陽 經

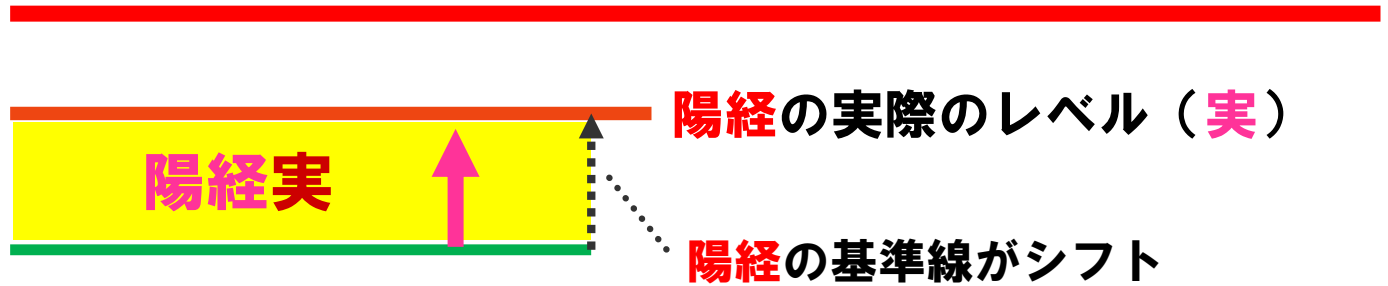
陰 經

陽經及び陰經の  
基準ライン  
(正常)



# 陽経実 & 陰経正常の相対的陰経虚

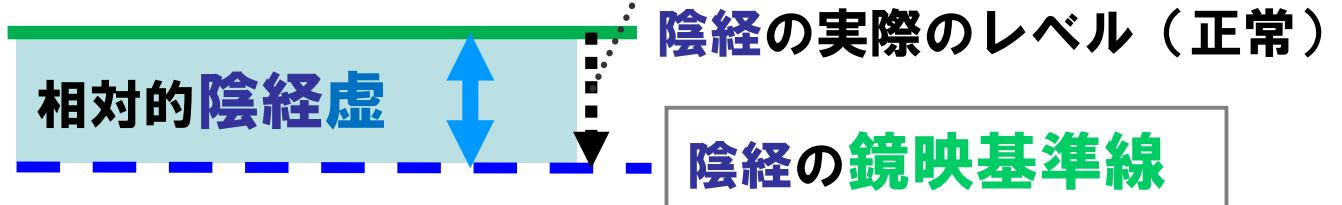
陽経側



陽経の基準線

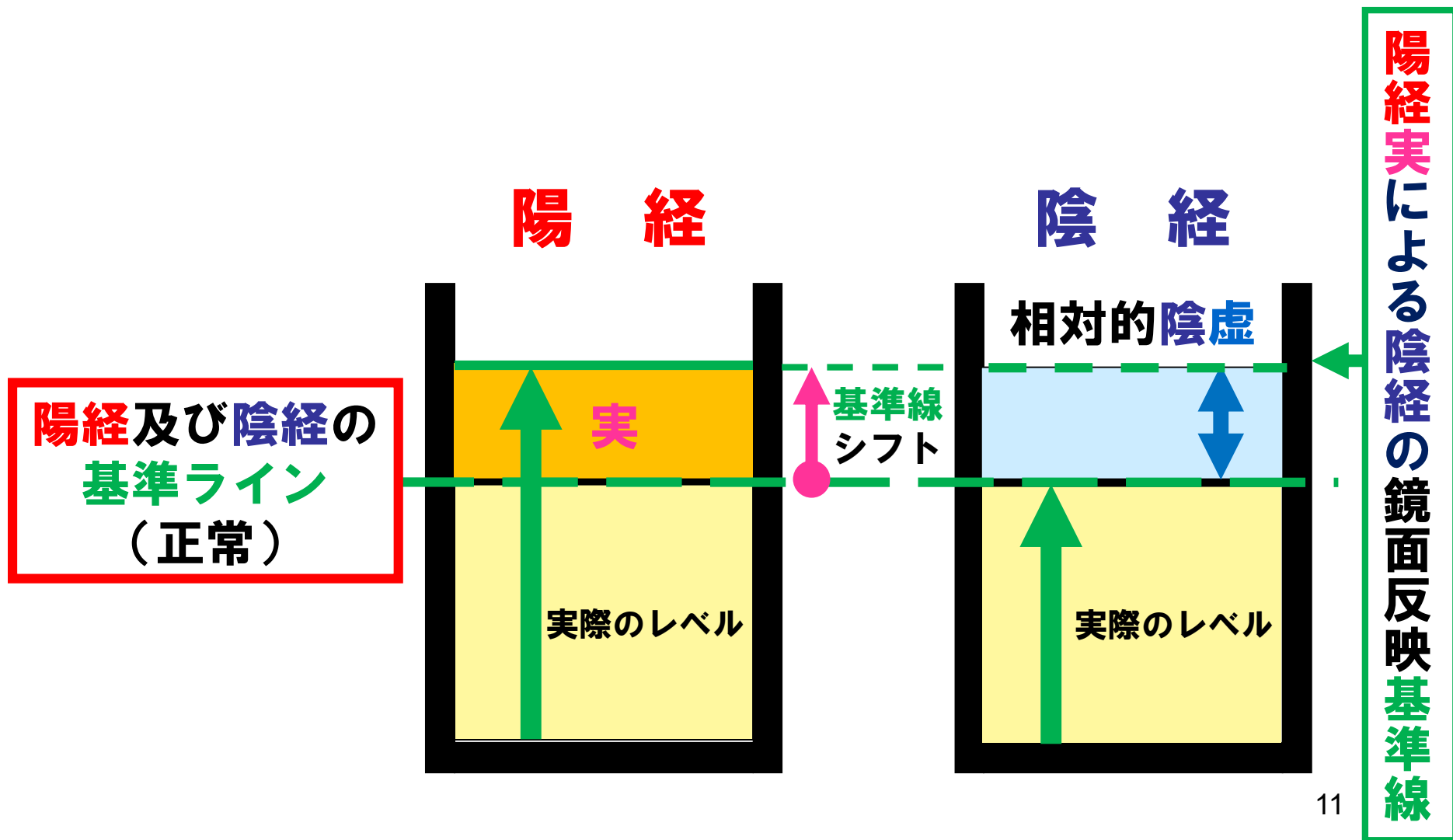
陽経・実による陰経  
基準線の鏡面反映

陰経の基準線



陰経側

# 陽経実 & 陰経正常の相対的陰経虚



# 陽経正常 & 陰経虚の相対的陽経実

陽経側

陽経の基準線

陽経の鏡映基準線

相対的陽経実

陽経の実際のレベル（正常）

陰経・虚による  
陽経基準線の鏡面反映

陰経の基準線

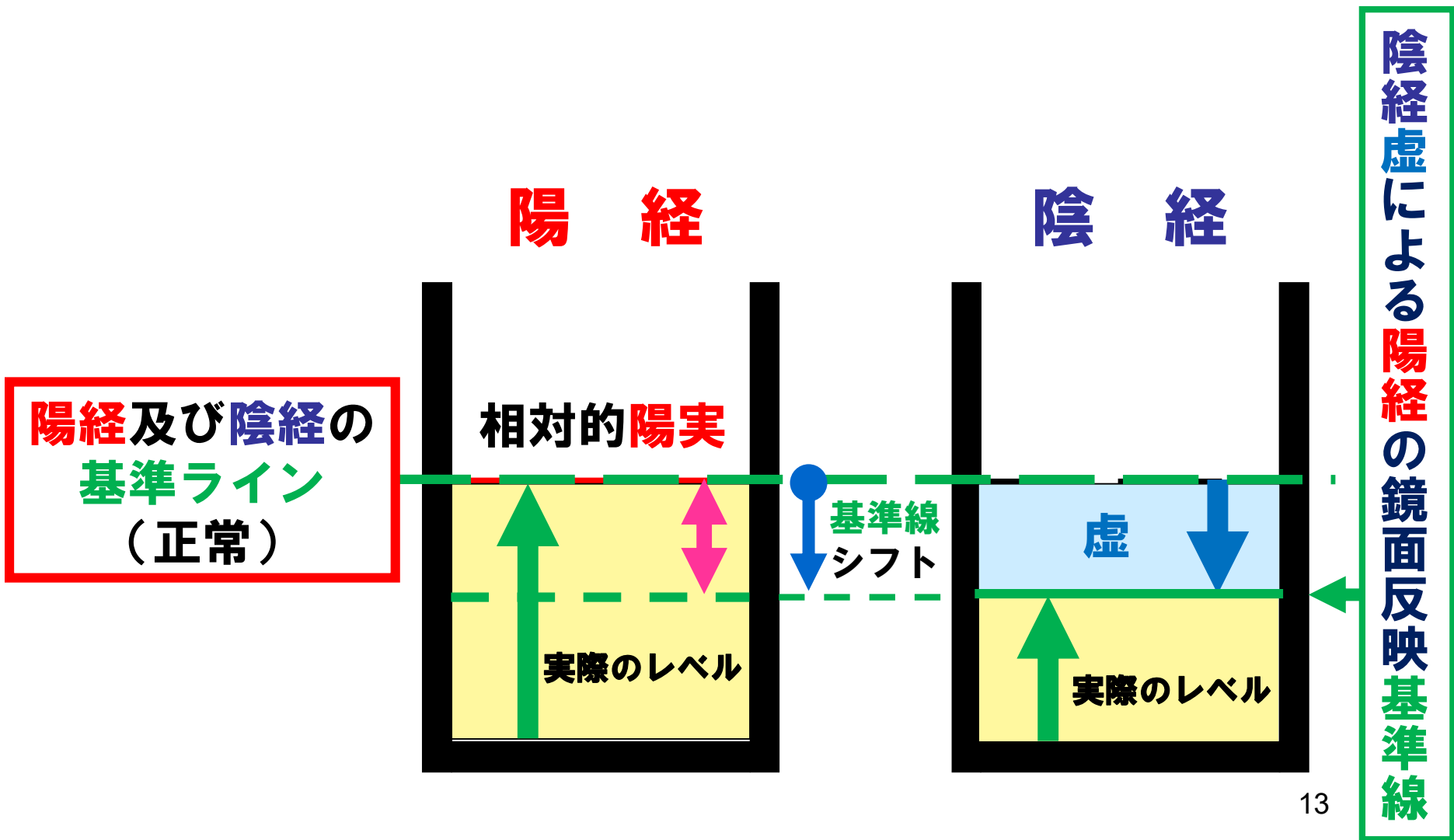
陰経虚

陰経の実際のレベル（虚）

陰経の基準線がシフト

陰経側

# 陽経正常 & 陰経虚の相対的陽経実



# 副交感神経機能低下に伴う 交感神経の相対的機能亢進

陽経側

交感神経の基準線

相対的交感神経 実

交感神経の  
実際のレベル（正常）

交感神経の  
鏡映基準線

副交感神経 虚

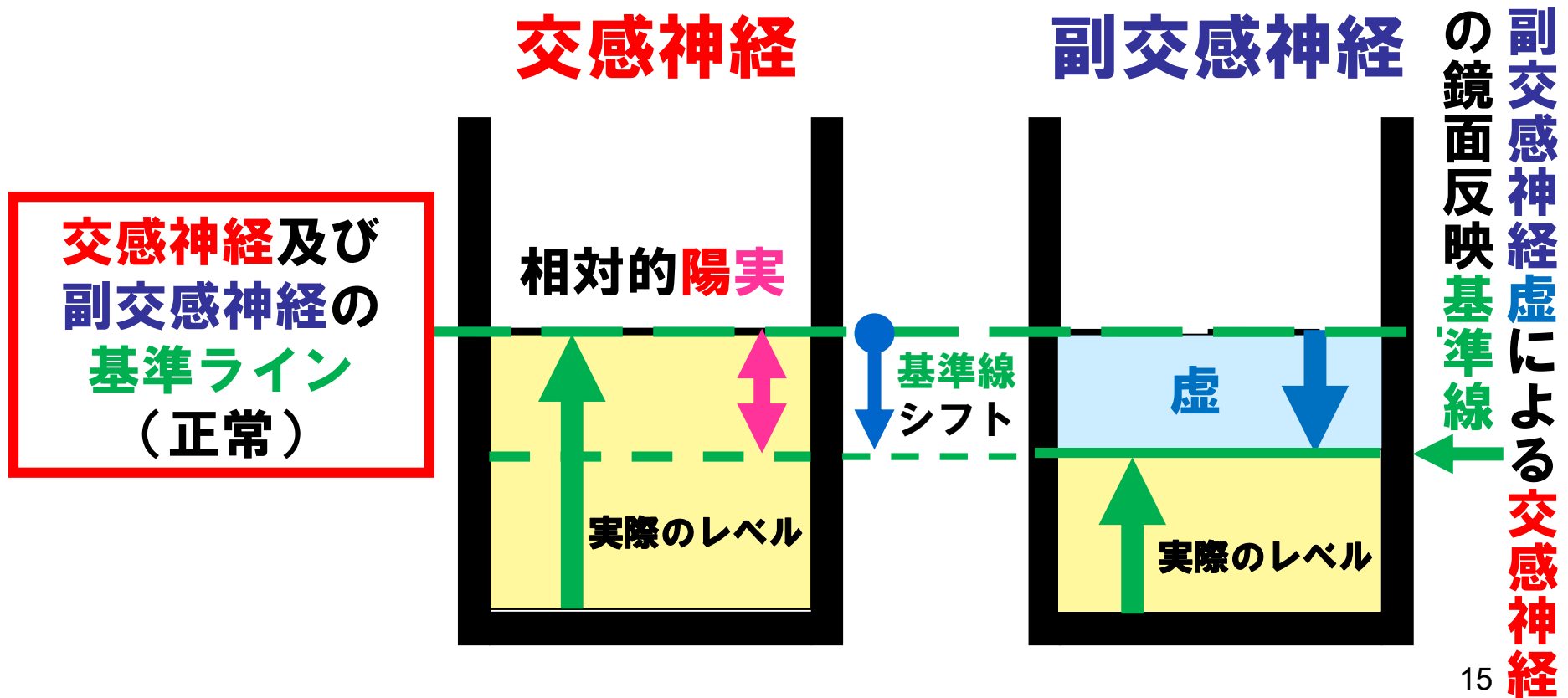
副交感神経の  
実際のレベル（虚）


副交感神経の基準線

陰経側

# 副交感神経機能低下に伴う

## 交感神経の相対的機能亢進





**十二経脈変化論  
実・虚に対する瀉・補の影響**





C-point

# 経脈変化論

## (C-point を使わない場合)

### I .C-point (絡穴) を使わない場合:

- ① 「**正常**」のラインは直接「**瀉**」しても「**補**」しても変化しない。
- ② 「**実**」のラインは直接「**補**」しても変化しない。但し、「**瀉**」すると僅かに「**実**」が減少する。
- ③ 「**虚**」のラインは直接「**瀉**」しても変化しない。但し、「**補**」すると僅かに「**虚**」が改善する。

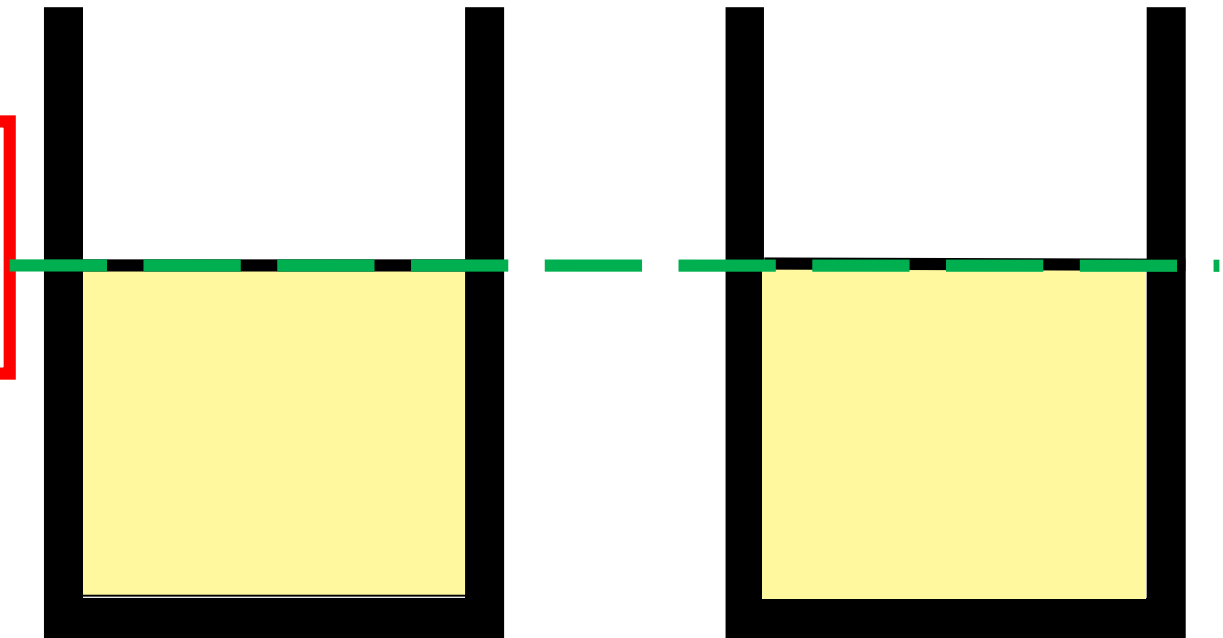
# 正 常

陽 経  
(陰経)

陰 経  
(陽経)

直接瀉又は補しても、何れも変化なし

陽経及び陰経の  
基準ライン  
(正常)

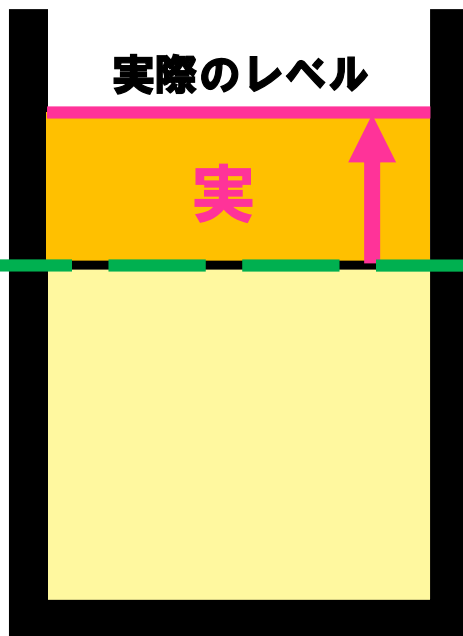


# 実と虚

陽 経

(陰経)

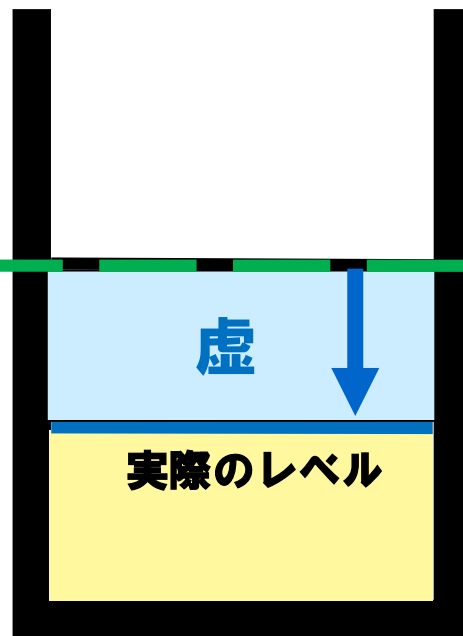
直接補しても  
変化なし



陰 経

(陽経)

直接瀉しても  
変化なし



陽経及び陰経の  
基準ライン  
(正常)

# 実と虚

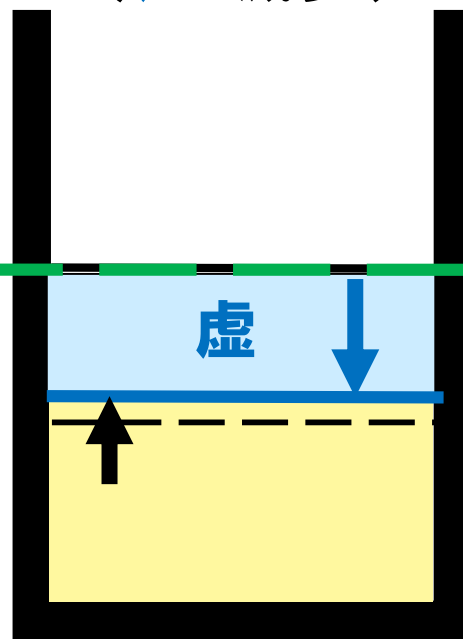
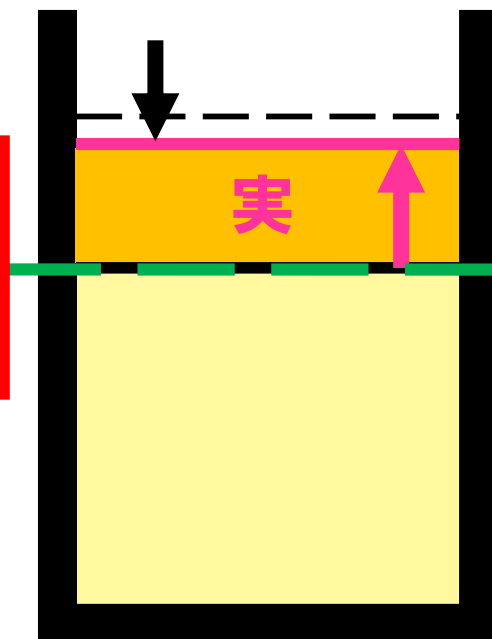
陽 經  
(陰 經)

陰 經  
(陽 經)

瀉したら僅かに改善  
(実・減少)

補したら僅かに改善  
(虚・減少)

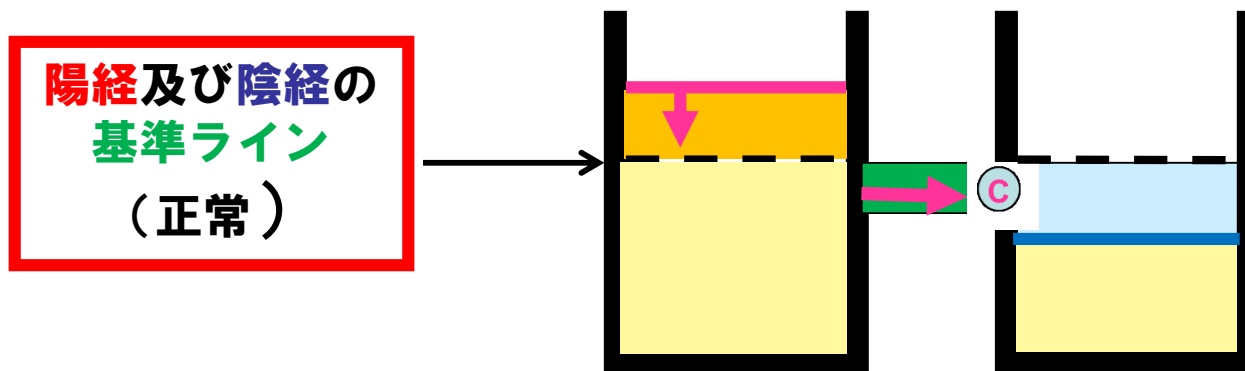
陽經及び陰經の  
基準ライン  
(正常)



# 経脈変化論 (C-point を使った場合)

## Ⅱ.C-point (絡穴) を使った場合 :

- ① C-point を押して手技をすると、C-point を押した反対側が変化する。
- ② C-point を押すと、押していない側から押した側に流れる。



# 経脈変化論

Ⅱ. C-point (絡穴) を使って補・瀉する場合：

1. 陽経・陰経共に「正常」の場合：

どちらか一方のラインの絡穴を押しながら、そのラインを「補」すと、何れのラインも実方向へ変化し、「瀉」すと虚方向へ変化する。

# 陽経・陰経共に正常の場合

陽・陰どちらかを絡穴を  
押しながら補した場合

陽・陰どちらかを絡穴を  
押しながら瀉した場合

陽経側

陽経（正常）



C



どちらか一方の C-point（絡穴）を使う

陰経（正常）



C



陰経側



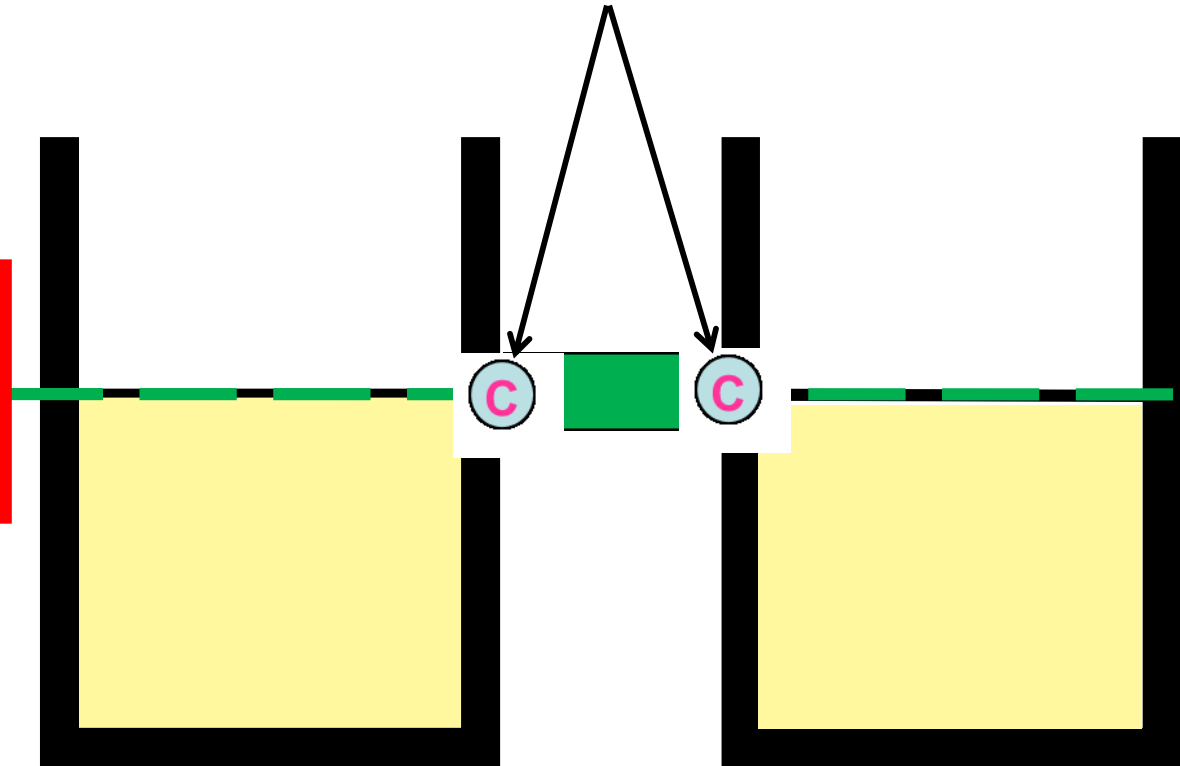
# 正常同士を絡穴を使って補

陽 経  
(陰経)

陰 経  
(陽経)

どちらかの C-point (絡穴) を押しながら補すと

陽経及び陰経の  
基準ライン  
(正常)



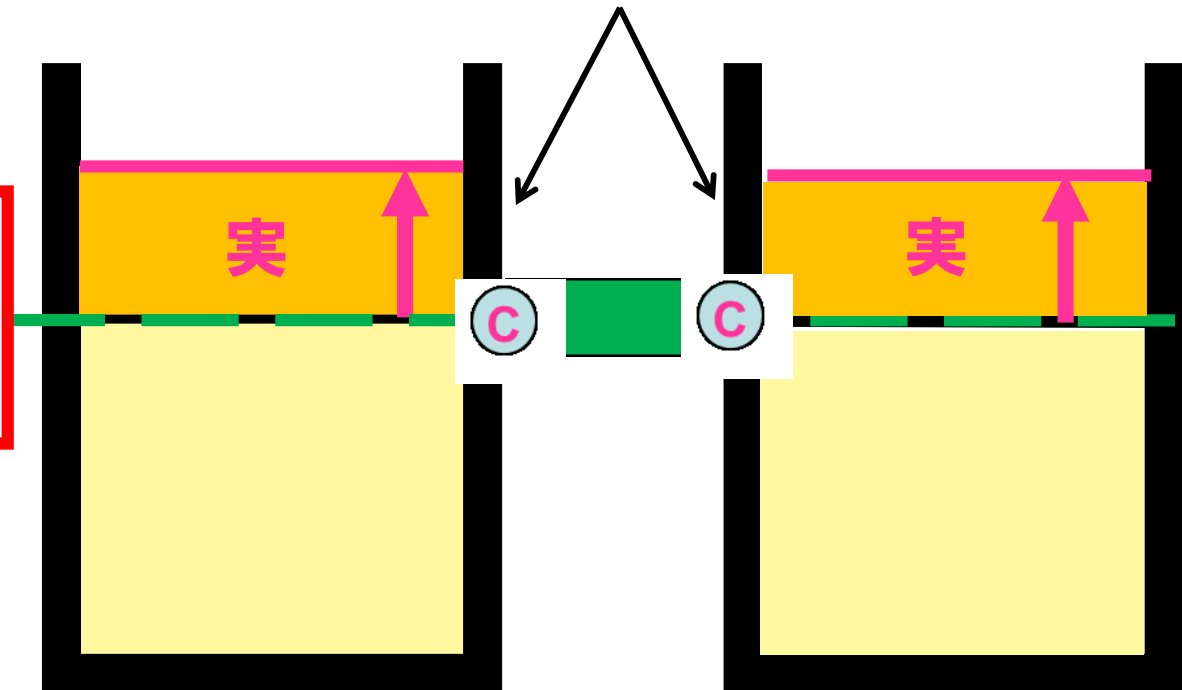
# 正常同士を絡穴を使って補

陽 経  
(陰経)

陰 経  
(陽経)

どちらかの C-point (絡穴) を押しながら補すと、  
何れのラインも実方向へ変化する

陽経及び陰経の  
基準ライン  
(正常)



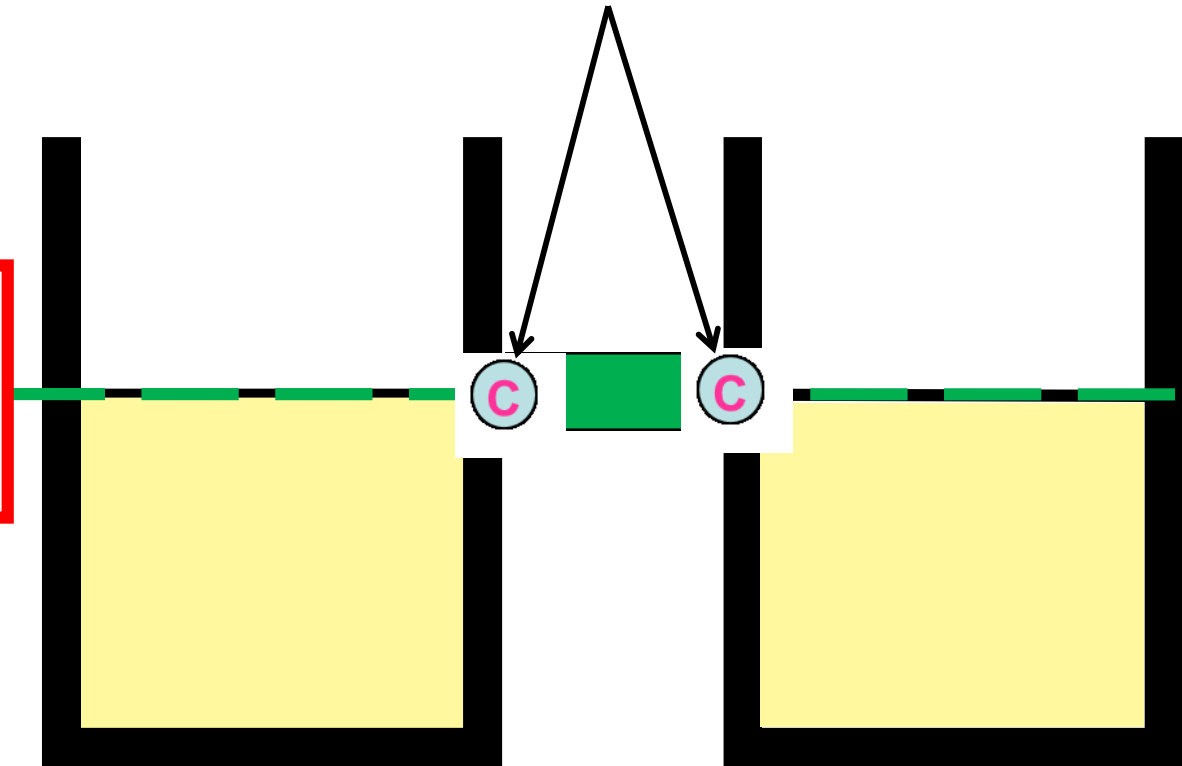
# 正常同士を絡穴を使って瀉

陽 経  
(陰経)

陰 経  
(陽経)

どちらかの C-point (絡穴) を押しながら瀉すと

陽経及び陰経の  
基準ライン  
(正常)



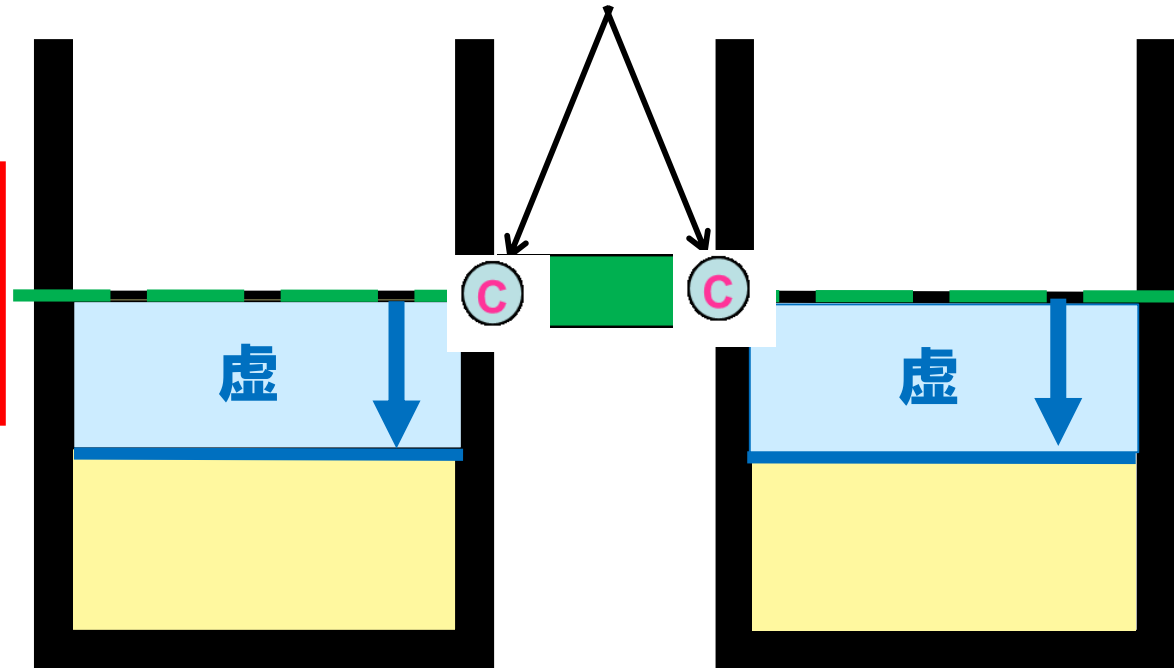
# 正常同士を絡穴を使って瀉

陽 経  
(陰経)

陰 経  
(陽経)

どちらかの C-point (絡穴) を押しながら瀉すと、  
何れのラインも虚方向へ変化する

陽経及び陰経の  
基準ライン  
(正常)



注意：一方が正常で、他方が正常でない場合

正常のラインに対して、他方のラインを C-point を押しながら「瀉」又は「補」と

①「瀉」した場合

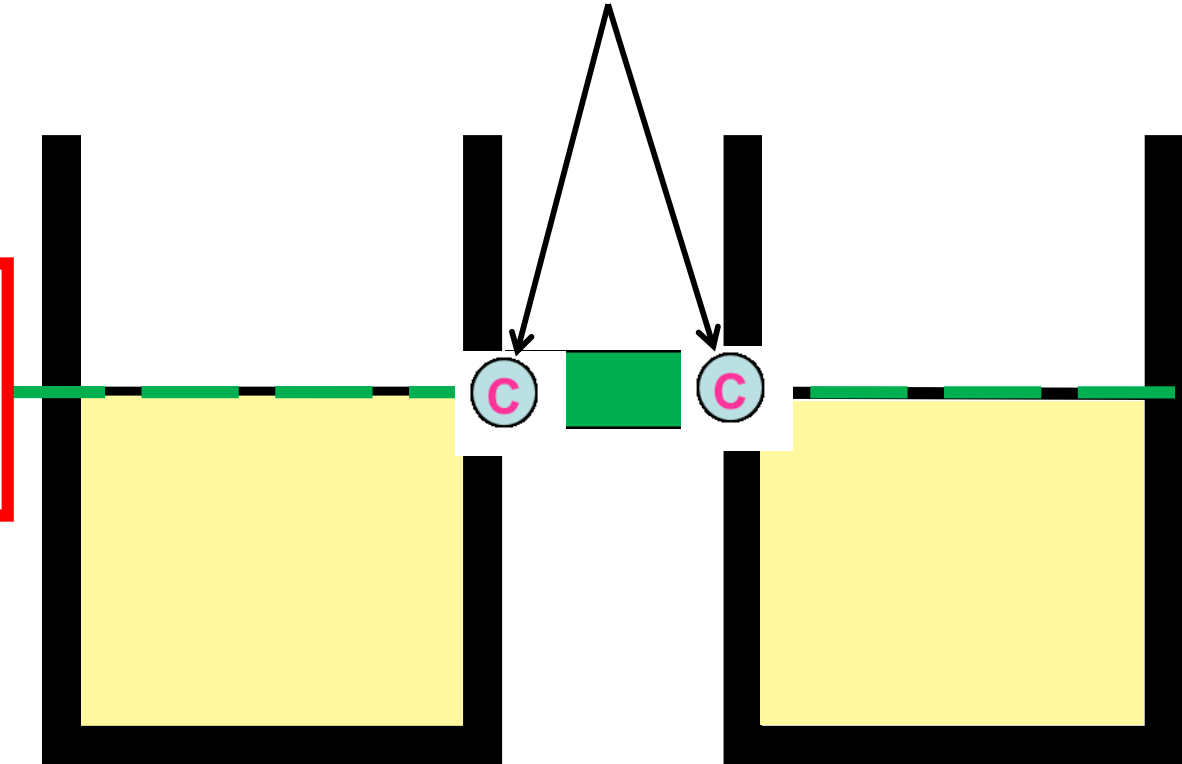
# 正常同士を絡穴を使って瀉

陽 経  
(陰経)

陰 経  
(陽経)

どちらかの C-point (絡穴) を押しながら瀉すと

陽経及び陰経の  
基準ライン  
(正常)



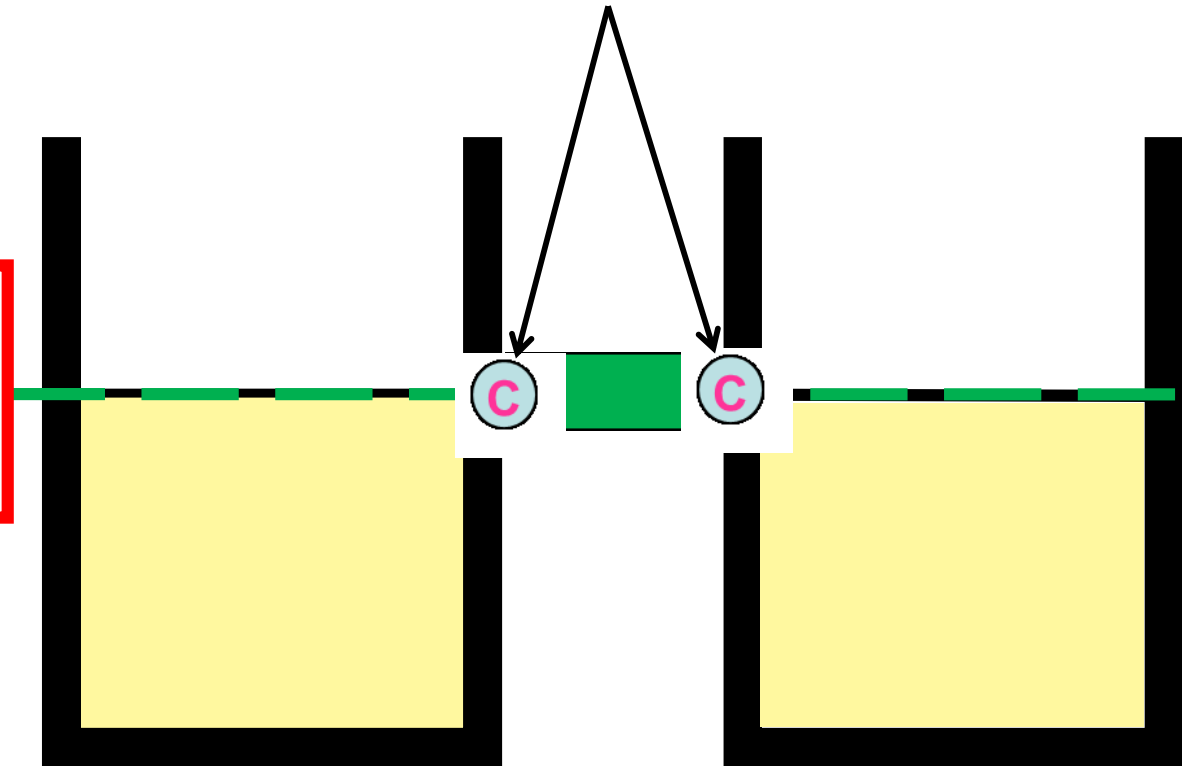
# 正常同士を絡穴を使って瀉

陽 経  
(陰経)

陰 経  
(陽経)

どちらかの C-point (絡穴) を押しながら瀉すと

陽経及び陰経の  
基準ライン  
(正常)



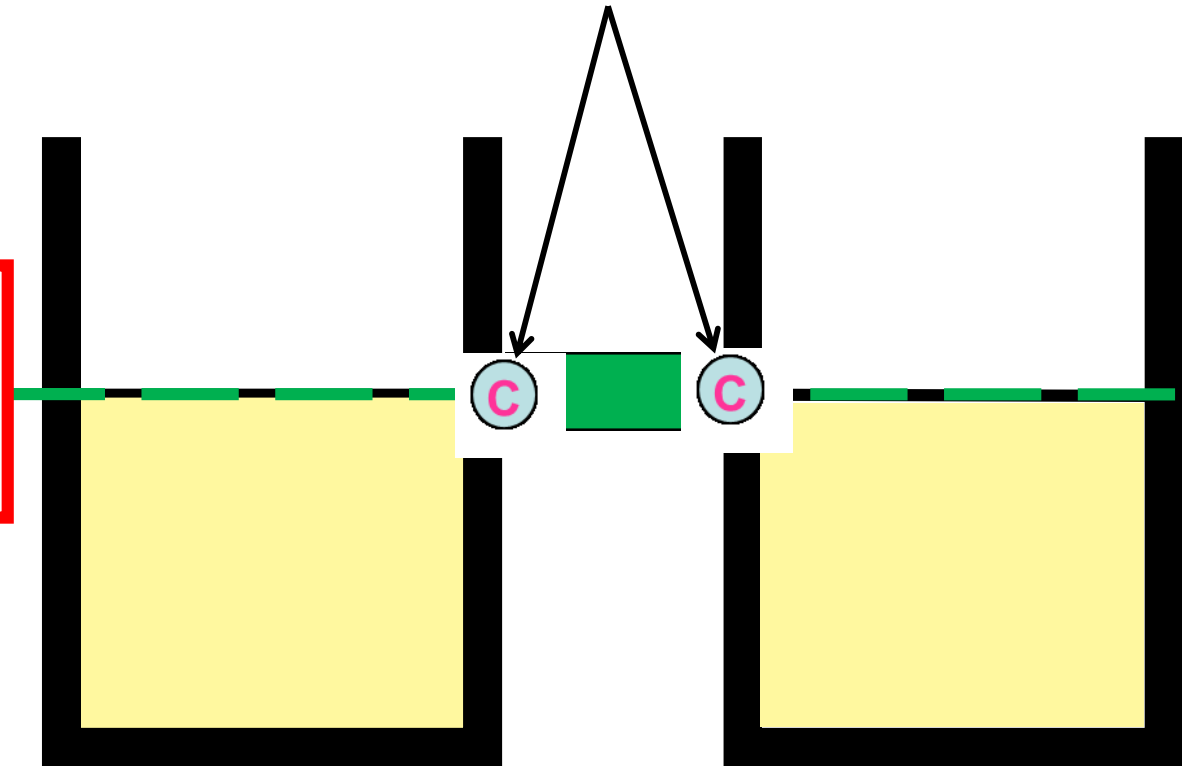
# 正常同士を絡穴を使って瀉

陽 経  
(陰経)

陰 経  
(陽経)

どちらかの C-point (絡穴) を押しながら瀉すと

陽経及び陰経の  
基準ライン  
(正常)





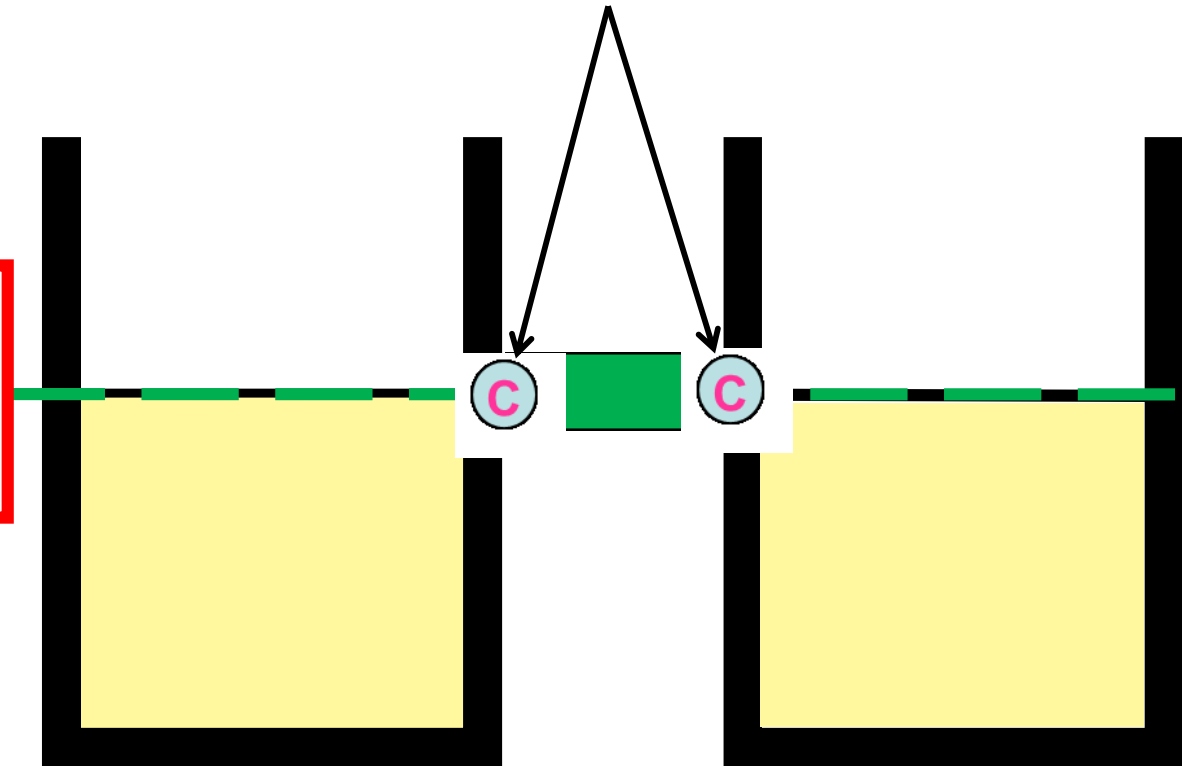
# 正常同士を絡穴を使って瀉

陽 経  
(陰経)

陰 経  
(陽経)

どちらかの C-point (絡穴) を押しながら瀉すと

陽経及び陰経の  
基準ライン  
(正常)



**実・虚に対する瀉・補の影響**

# 3つのパターンを考える

①一方が**実**・他方が**正常**

②一方が**正常**・他方が**虚**

③一方が**実**・他方が**虚**

①～③に対して次の **1** ～ **8** のパターンでの変化を考える。

# 1 ～ 8 のパターンの解析

1 陽経のみを瀉す

2 陰経のみを瀉す

3 陽経のみを補す

4 陰経のみを補す

5 陽経の絡穴を押し陽経を瀉す

6 陰経の絡穴を押し陰経を瀉す

7 陽経の絡穴を押し陽経を補す

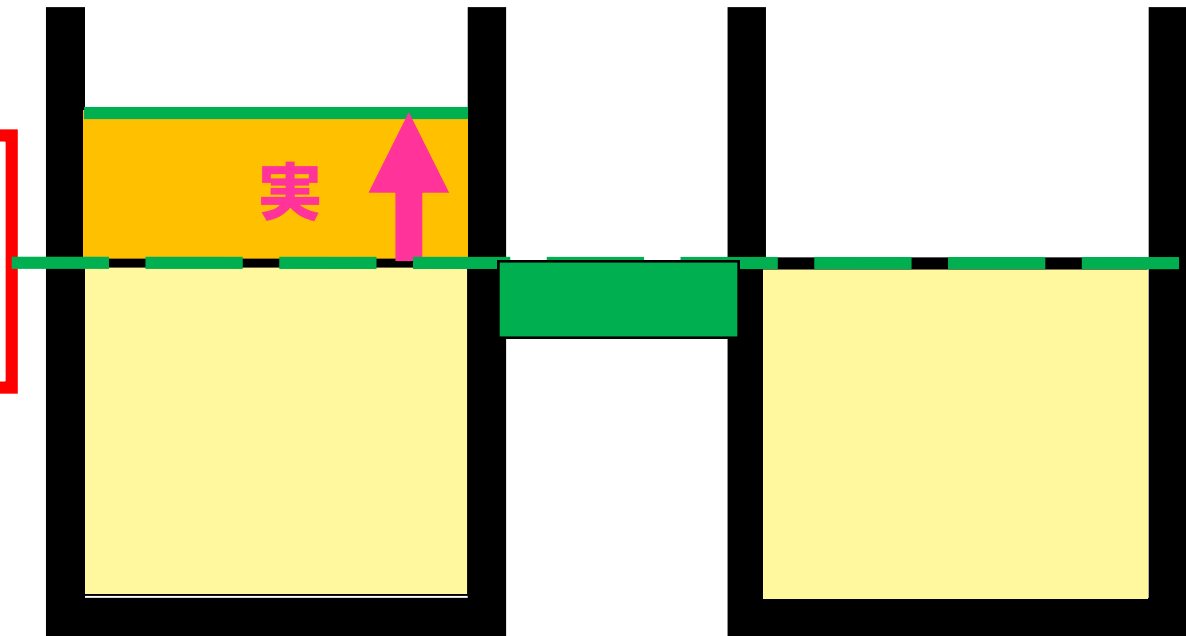
8 陰経の絡穴を押し陰経を補す

# ①一方が**実**・他方が**正常**

陽 経  
実

陰 経  
正常

陽経及び陰経の  
基準ライン  
(正常)

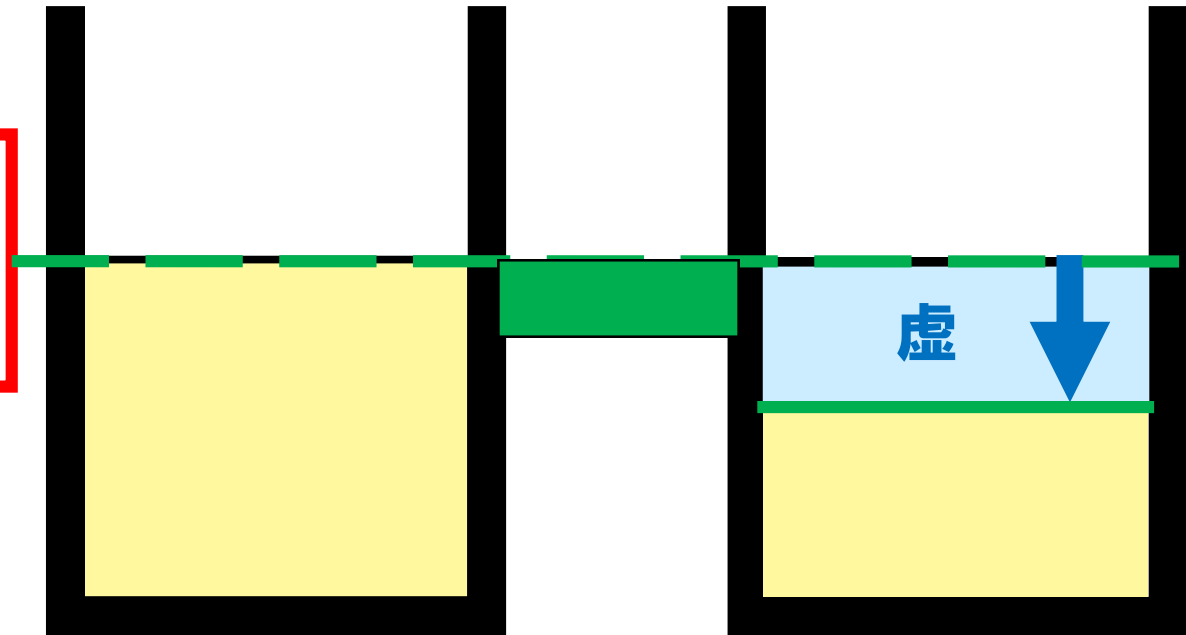


## ②一方が正常・他方が虚

陽 經  
正常

陰 經  
虚

陽經及び陰經の  
基準ライン  
(正常)

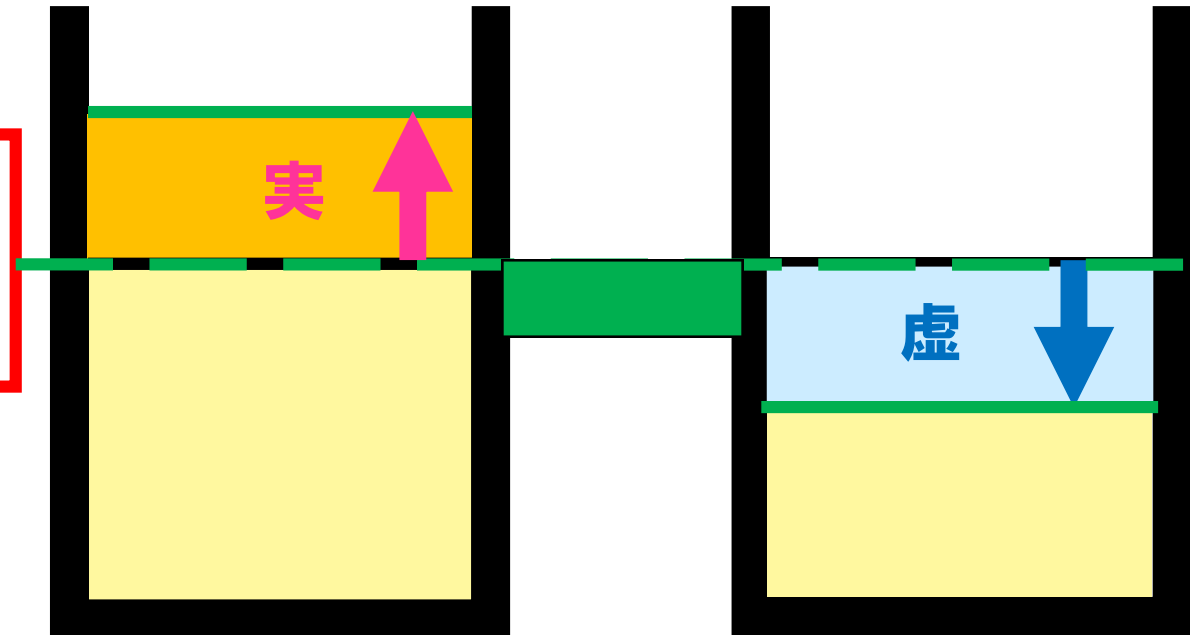


# ③一方が**実**・他方が**虚**

陽 經  
実

陰 經  
虚

陽經及び陰經の  
基準ライン  
(正常)

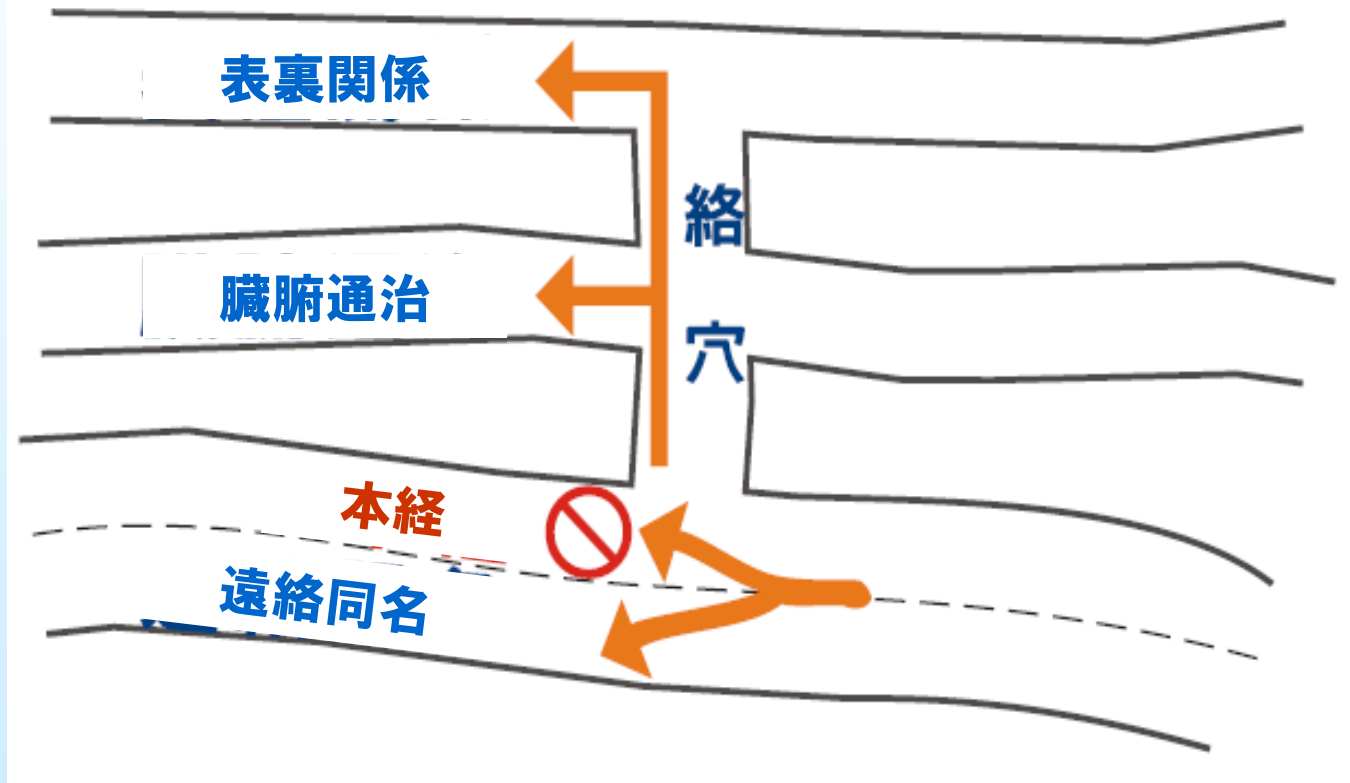


**連接**



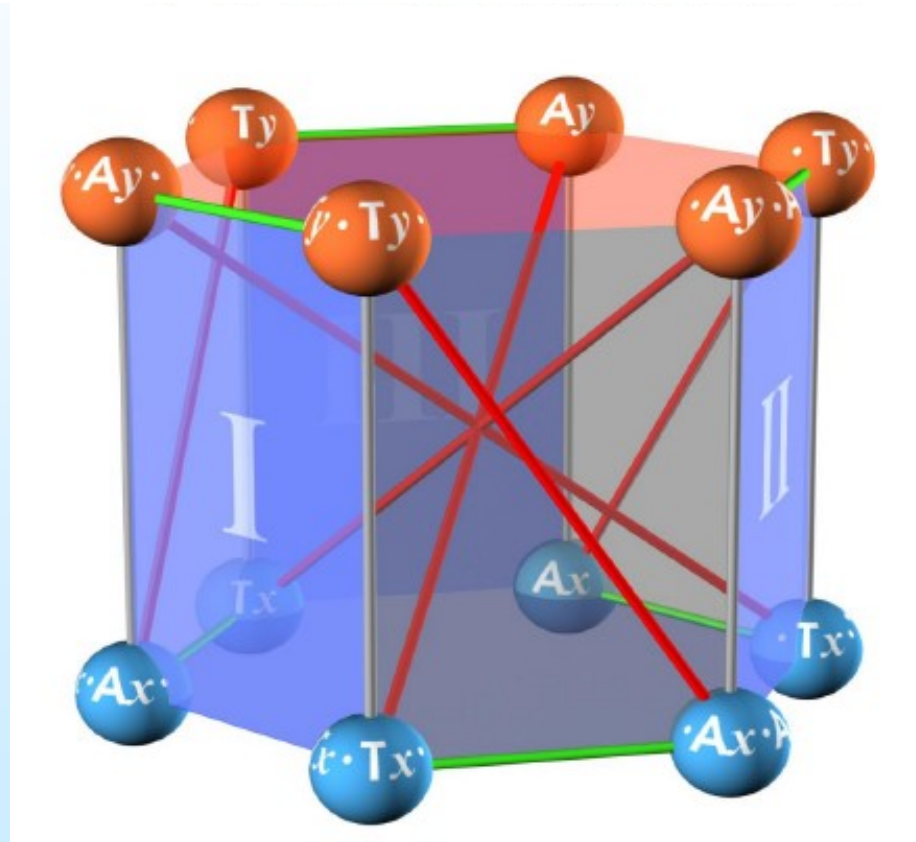
# 遠絡医学における接続の考え方

## 3つの接続方法

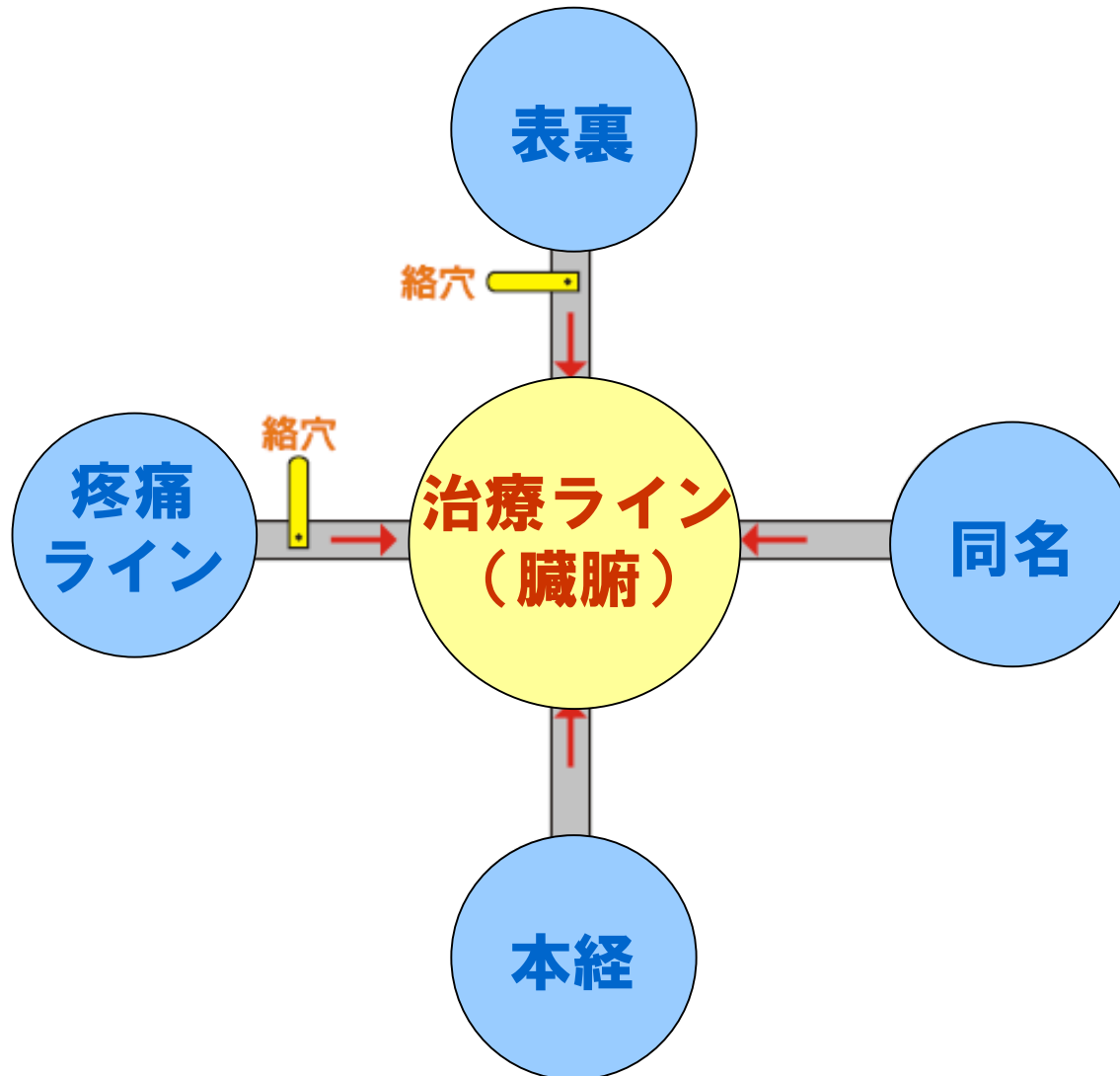


# 遠絡医学における接続の考え方

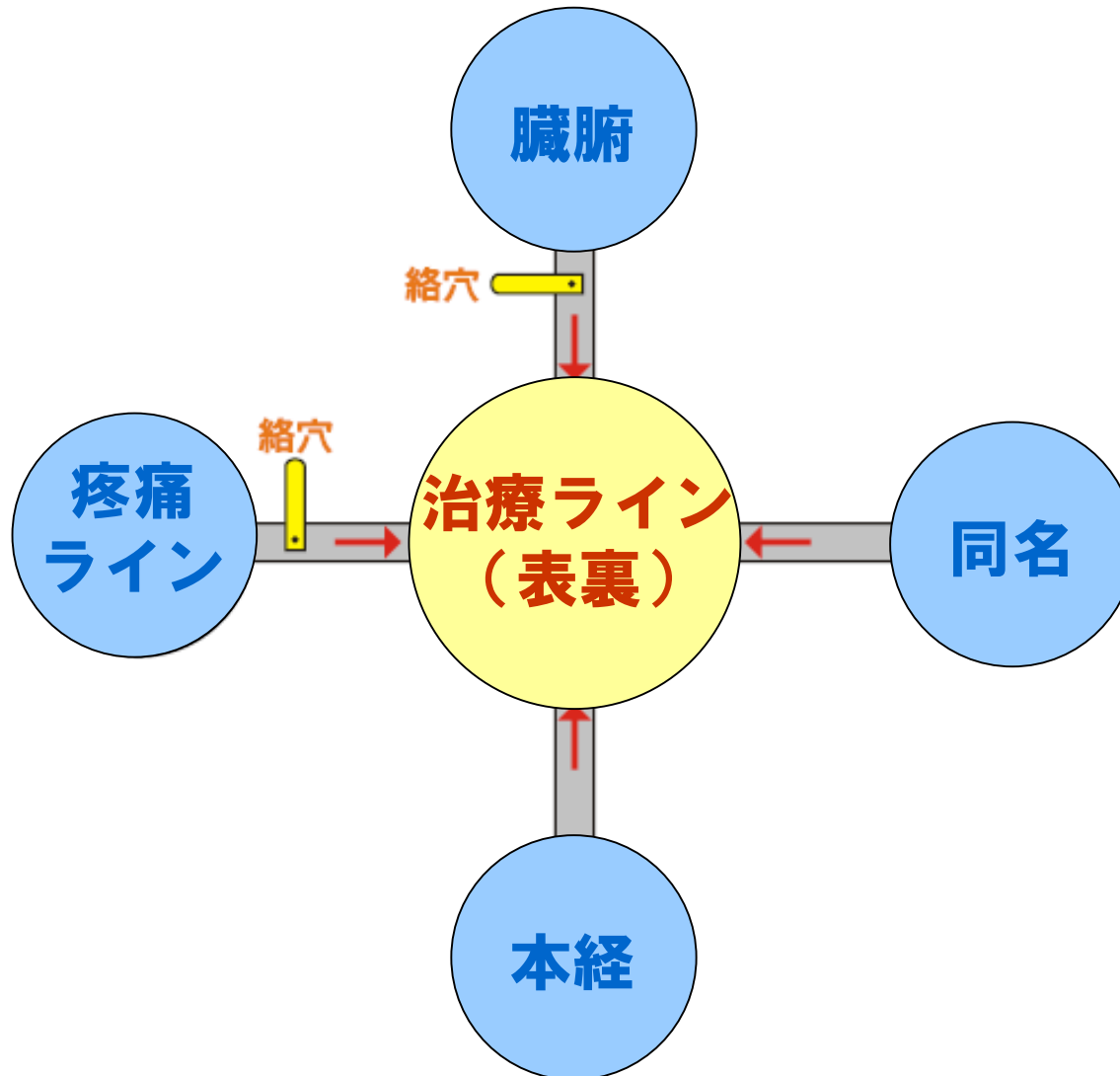
## 六角形接続関係模型図



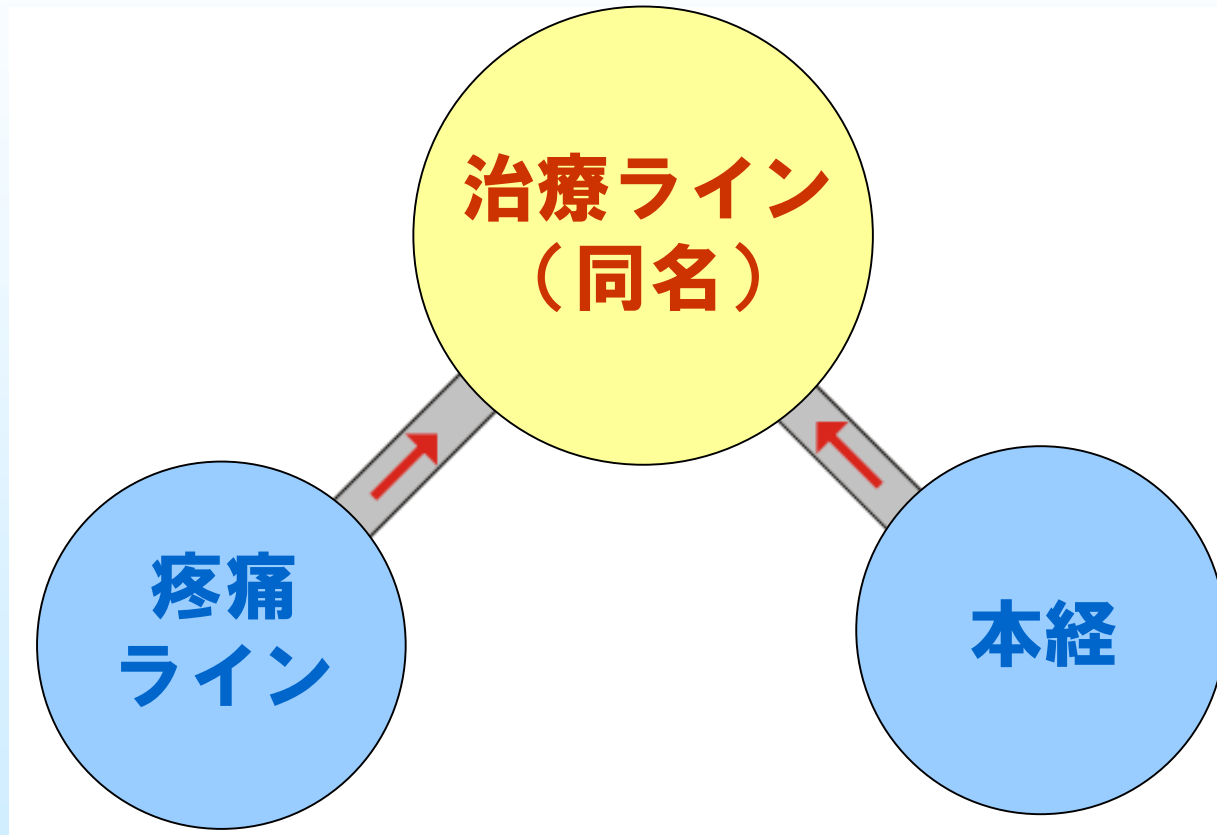
# 遠絡医学における接続の考え方



# 遠絡医学における接続の考え方



# 遠絡医学における接続の考え方



# 局所症状の治療ラインを決めるには

治療ライン

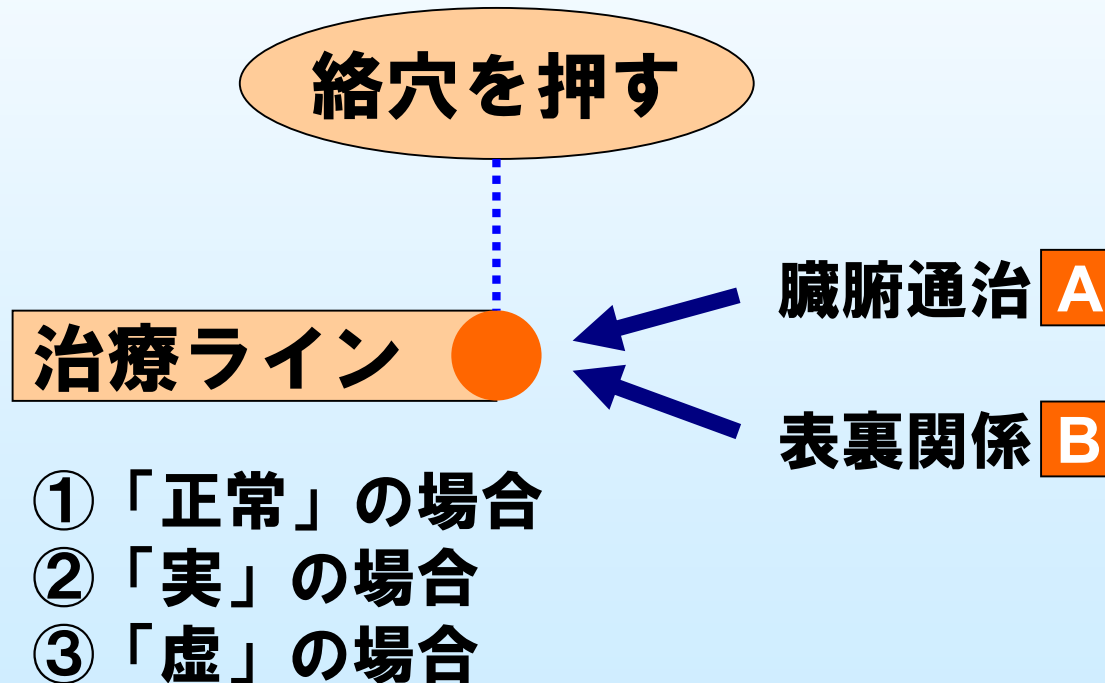
→ **正常** or **虚** が必要条件

→ **実** は治療効果が出ない

※治療ラインが実ではないことが接続するための必要条件

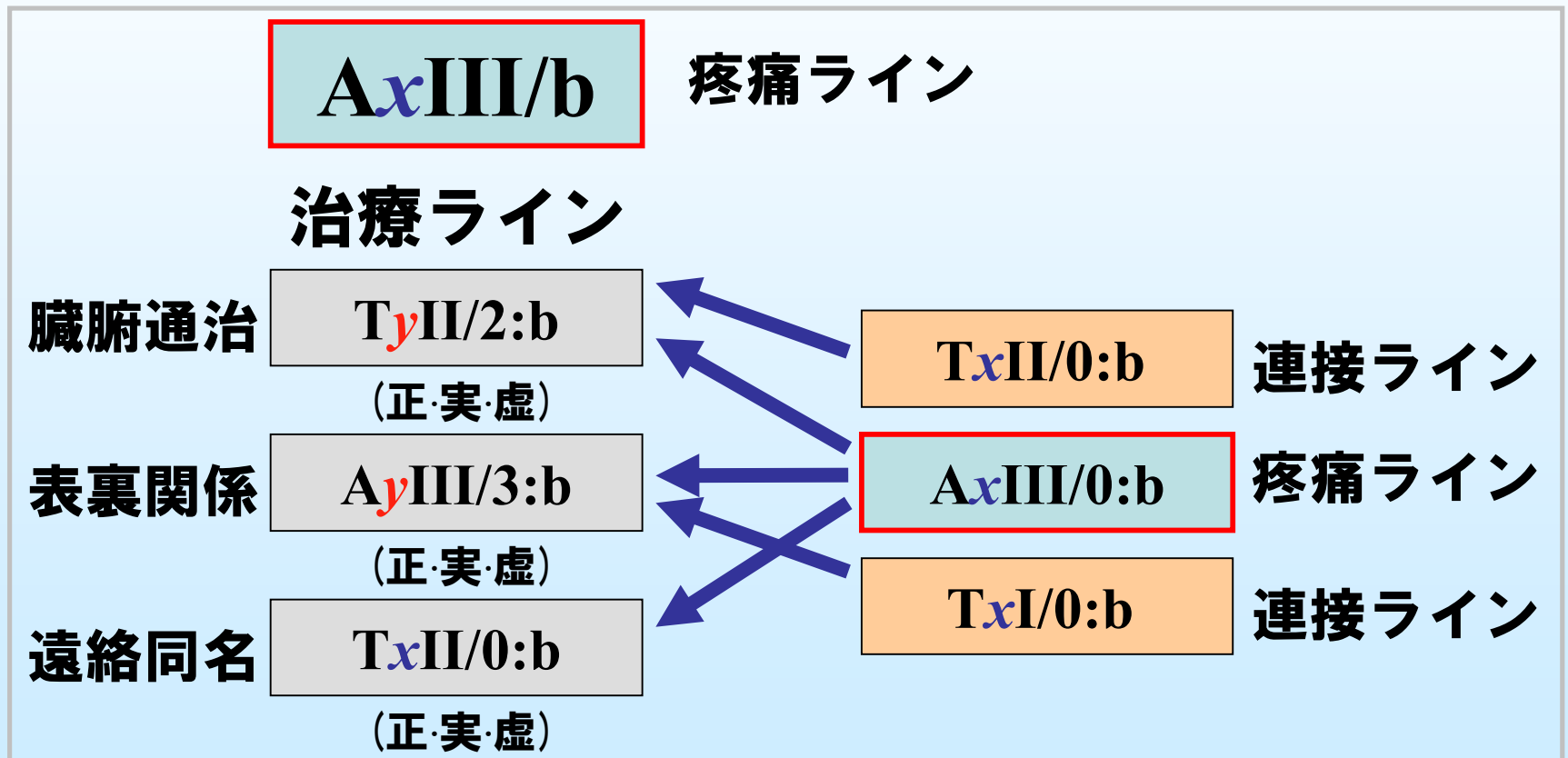
# 絡穴の応用

## 絡穴を押して、接続をする



# 絡穴の応用

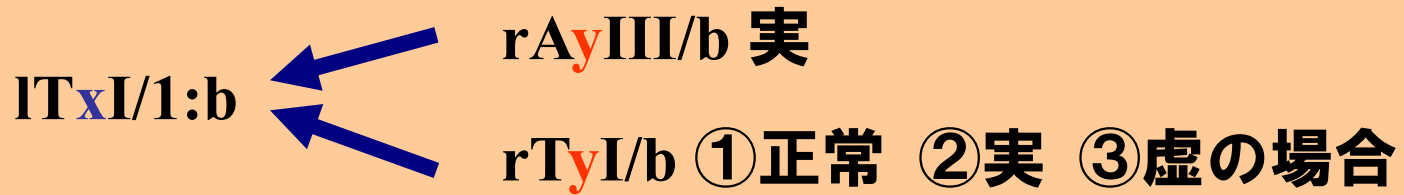
## 絡穴を押して、接続をする





# rAyIII 坐骨部痛 (b)

(1)



- ① 正常の場合
- ② 「実」の場合
- ③ 「虚」の場合

# rAyIII 坐骨部痛 (b)

(2)

$lAxIII/a:b$  ←  $rTxII/a+b$  ①正常 ②実 ③虚の場合  
←  $rAyIII/b$  実

- ① 正常の場合
- ② 「実」の場合
- ③ 「虚」の場合

# 治療ライン選定 練習問題

## 問題 1.

右側のT<sub>y</sub>IとT<sub>x</sub>Iの肩関節痛及び  
右側A<sub>x</sub>II股関節痛の治療方法

# 問題 1. 治療ライン選定ガイド

治療対象ライン	臓腑通治	表裏	同名	本経
例  rAyIII/a	rTy I /a (表裏) ↓ (同名) ITx I /1:a ← rAx II /a ↑ (本経) rTx I /a (本経)	rTy II /a (臓腑通治) ↓ (同名) IAx III /a:a ← rTx II /a ↑ (本経) rAx III /a (本経)	rTy III /a (本経) ↓ rTy III /0:a	rTy III /a (同名) ↓ rAy III /0:a
	(表裏) ↓ (同名) ← ↑ (本経)	(臓腑通治) ↓ (同名) ← ↑ (本経)	(本経) ↓	(同名) ↓
	(表裏) ↓ (同名) ← ↑ (本経)	(臓腑通治) ↓ (同名) ← ↑ (本経)	(本経) ↓	(同名) ↓
	(表裏) ↓ (同名) ← ↑ (本経)	(臓腑通治) ↓ (同名) ← ↑ (本経)	(本経) ↓	(同名) ↓
	(表裏) ↓ (同名) ← ↑ (本経)	(臓腑通治) ↓ (同名) ← ↑ (本経)	(本経) ↓	(同名) ↓
最終的な治療式				

# 一部拡大

治療対象ライン	臓腑通治	
例  <b>rAyIII / a</b>	<b>rTy I / a</b> ↓ <b>ITx I / 1:a</b> ↑ <b>rTx I / a</b>	(表裏)  (同名) <b>rAx II / a</b> ←

完成した表は別途配布

# 一部拡大

治療対象ライン	表 裏	
例  <b>rAyIII/a</b>	<p><b>rTyII/a</b> (臓腑通治)</p> <p>↓</p> <p><b>IAxIII/a:a</b></p> <p>↑</p> <p><b>rAxIII/a</b> (本経)</p>	<p>(同名)</p> <p><b>rTxII/a</b></p> <p>←</p>

完成した表は別途配布

# 一部拡大

治療対象ライン	同名	本経
例	rTyIII/a (本経)	rTyIII/a (同名)
rAyIII/a	↓ rTyIII/0:a	↓ rAyIII/0:a

完成した表は別途配布



## 問題 2.

左側のTxIII肘関節と右側AxI、  
AyI膝関節痛の治療方法

十天干から十二天干へ

# 十天干の生数と成数

## 生数

1 木陽

2 木陰

3 火陽

4 火陰

5 土陽

## 成数

6 土陰

7 金陽

8 金陰

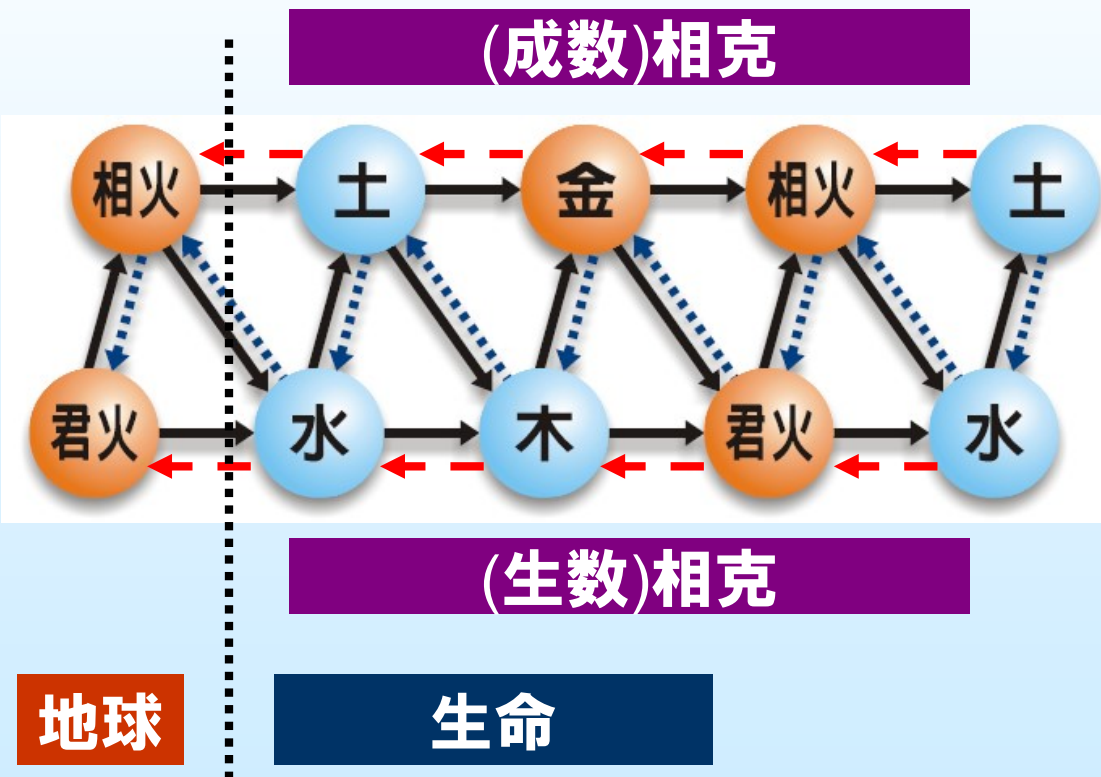
9 水陽

10 水陰

※成数=生数+5

# 生命誕生の生数と成数

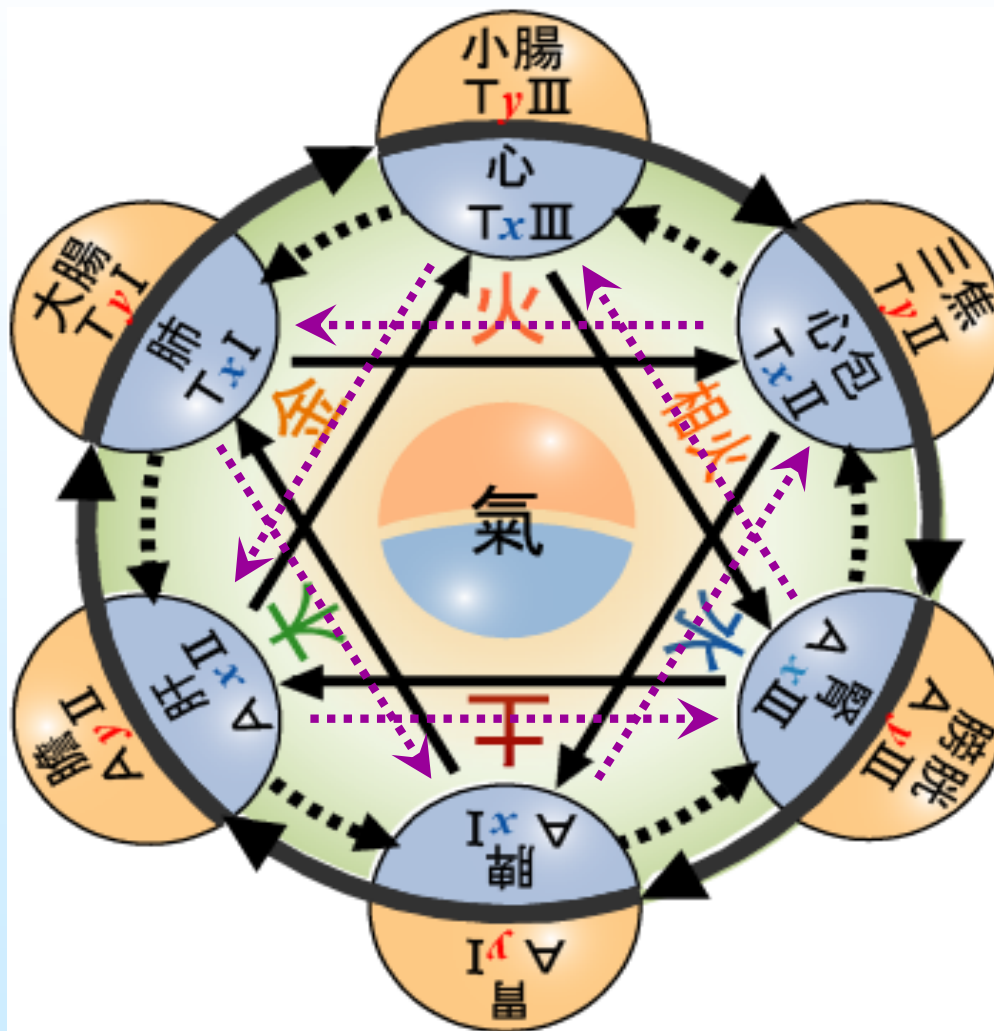
## 十二天干



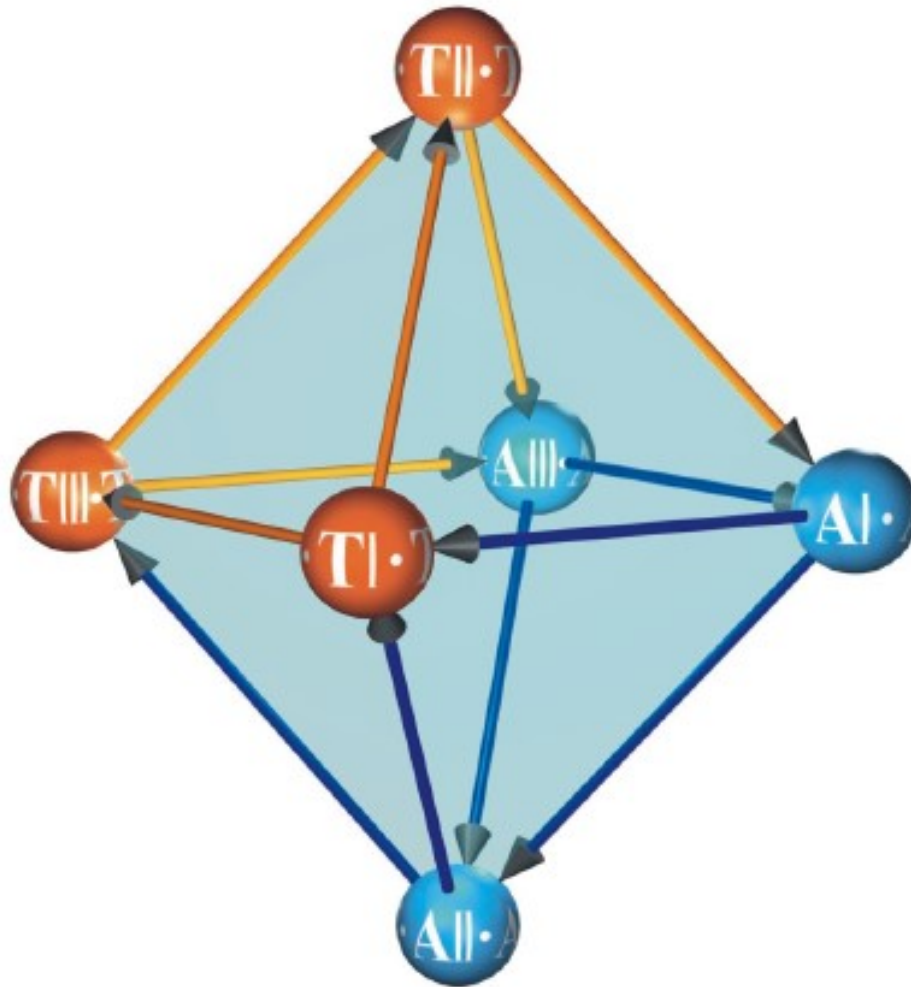
生数	成数
1 水陽	7 相火陽
2 水陰	8 相火陰
3 木陽	9 土陽
4 木陰	10 土陰
5 君火陽	11 金陽
6 君火陰	12 金陰

※成数=生数+6

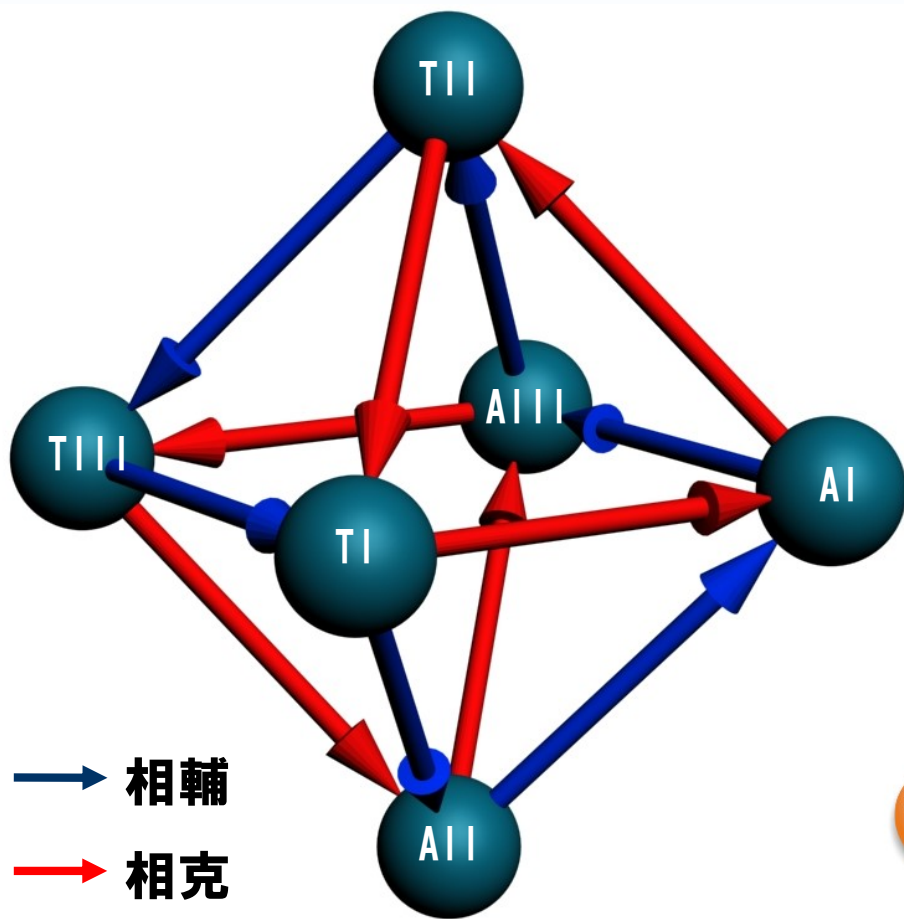
# 遠絡相生・相輔・相克關係圖



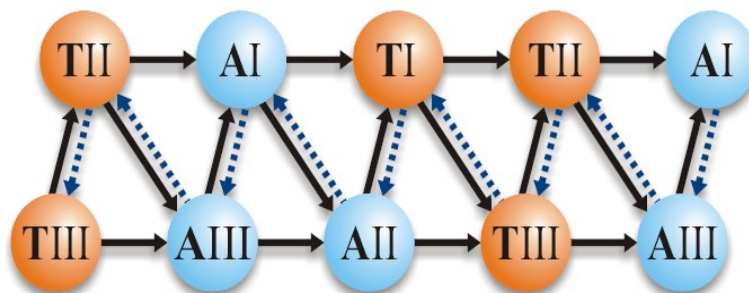
# 相生關係



# 相輔・相克關係



相輔・相克關係



記号表記





# 相 輔

# 相輔

**A** 輔する側

**B** 輔される側

# 相輔

**A** 輔する側

**B** 輔される側

**A** と **B** がそれぞれ、

**1** 正常の場合

**2** 「実」の場合

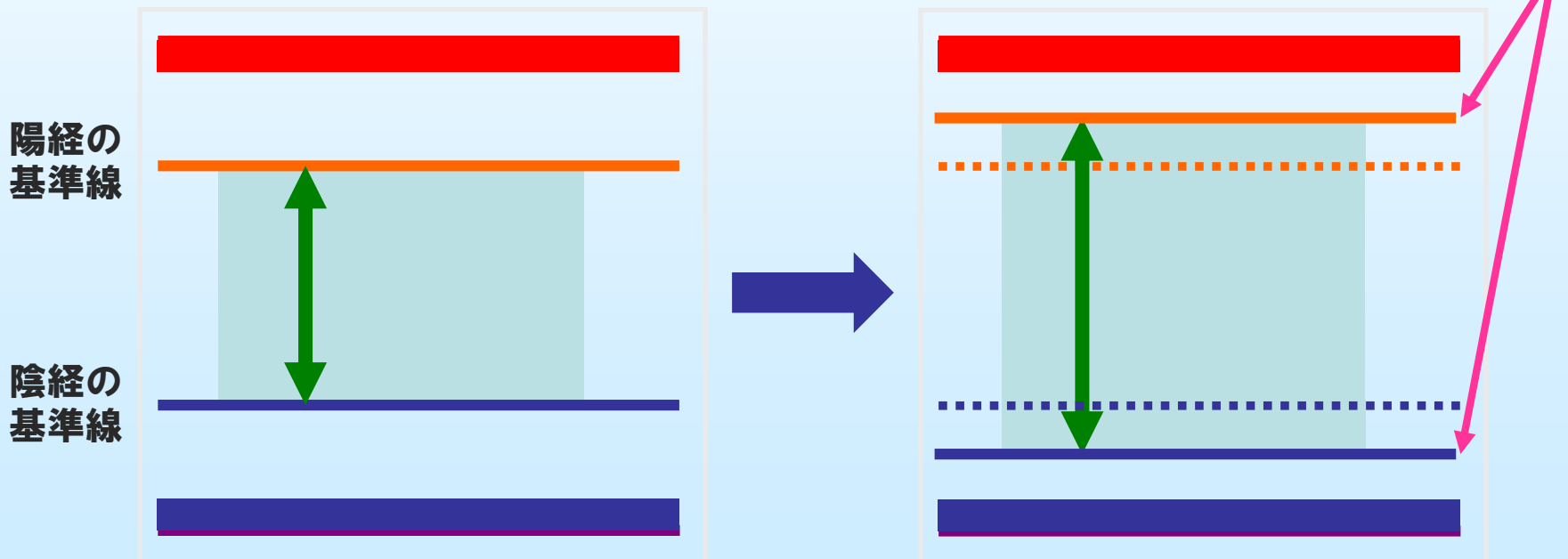
**3** 「虚」の場合

**4** 一方は「実」、一方は「虚」の場合

# A 輔する側の場合

## 1 正常の場合

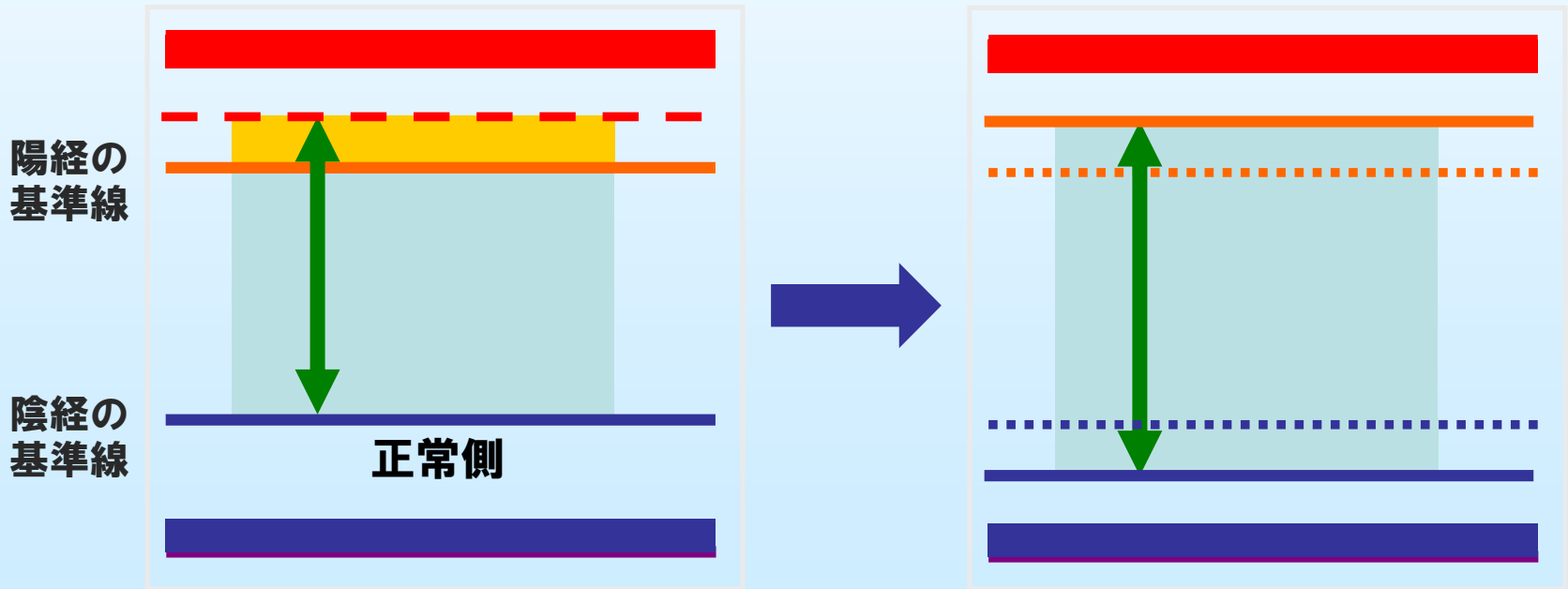
「陰」又は「陽」の絡穴を押しながら、  
その「陰」又は「陽」のF-pointを補す。  
→陰陽のラインが実側にシフトする。



# A 輔する側の場合

## 2 「実」の場合

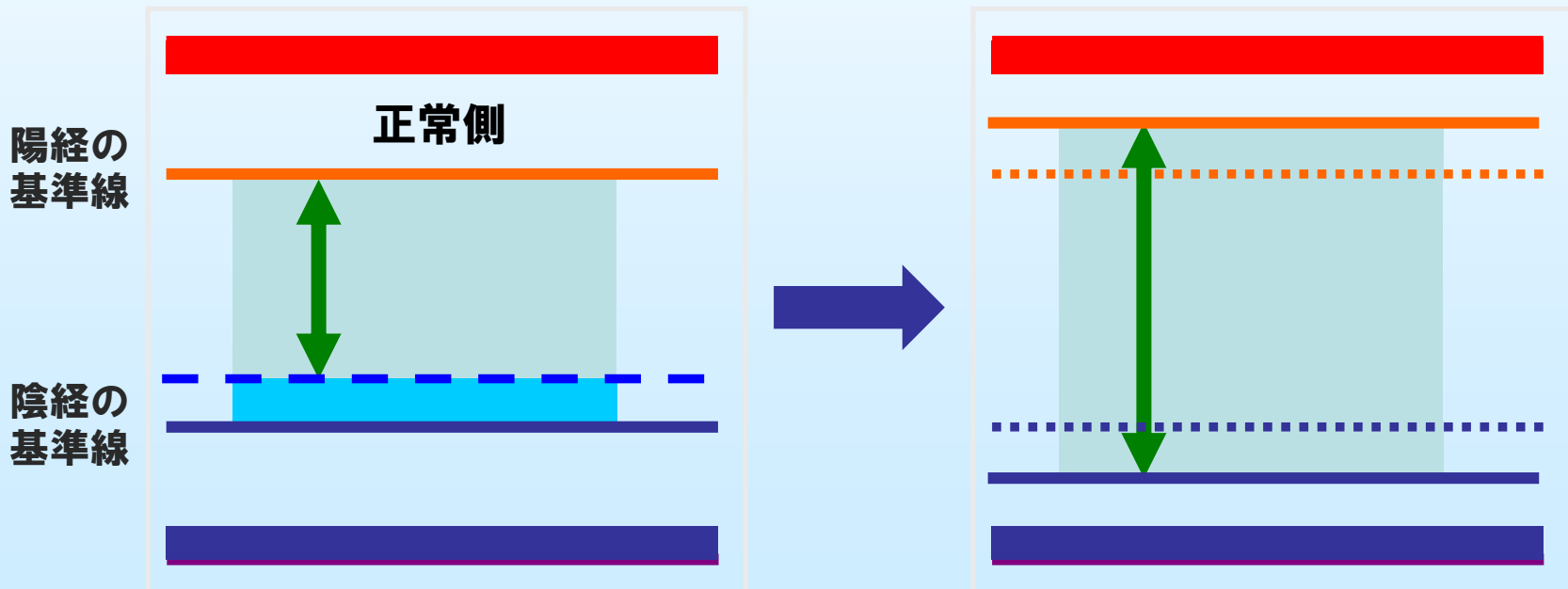
- ① 正常側の絡穴を押し、F-pointを瀉す。 → 実が無くなる。
- ② 正常側の絡穴を押し、F-pointを補す。 → ①と同じになる。



# A 輔する側の場合

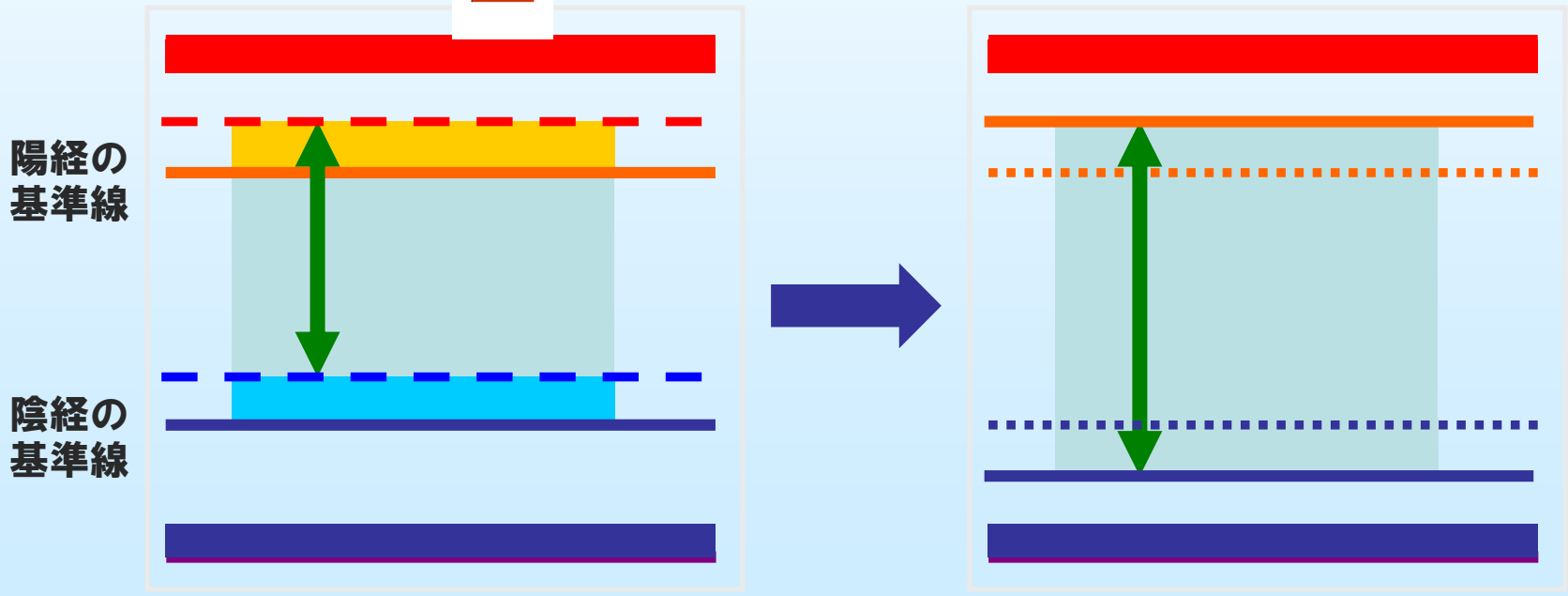
## 3 「虚」の場合

正常側の絡穴を押し、F-pointを補す。  
→ 輔し続けたら 1 と同じになる。



# A 輔する側の場合

- 4** 一方は「実」、一方は「虚」の場合
- ① 「虚」の絡穴を押し、F-pointを瀉す。
  - ② 「実」の絡穴を押し、F-pointを補す。
- **1** と同じになる



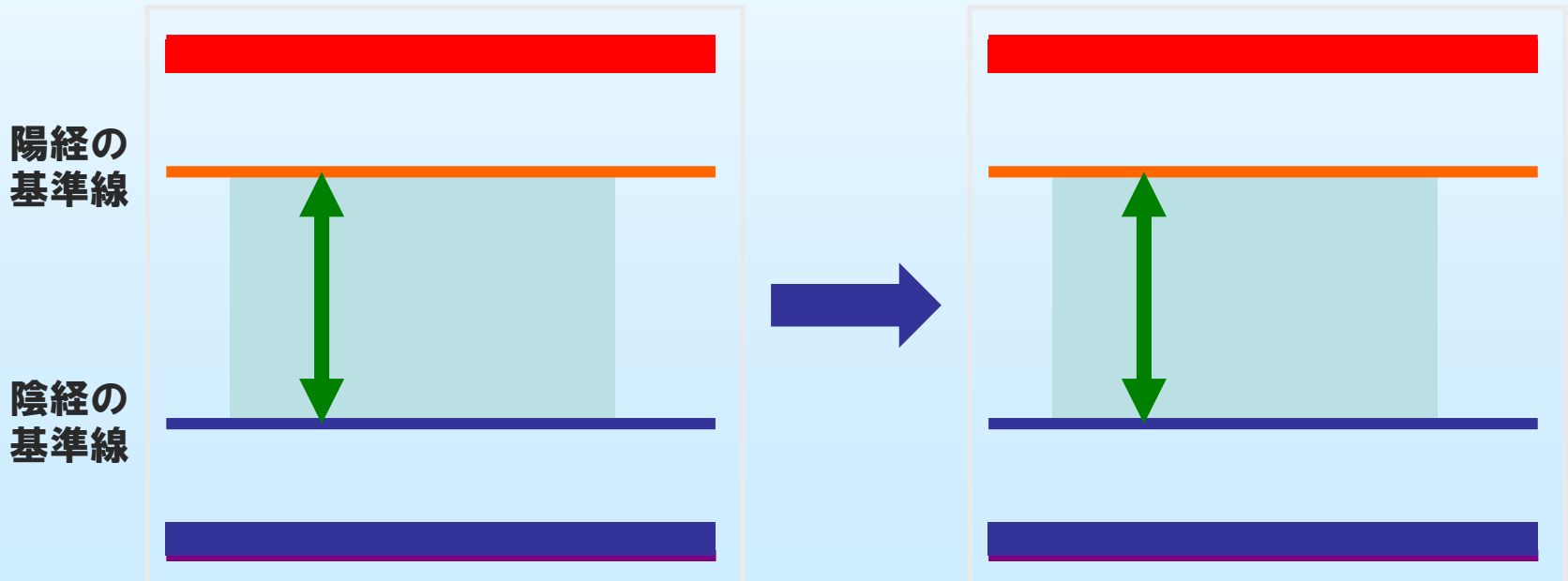
**輔する側が増強する場合、  
輔される側はどう変化するか。**



# B 輔される側の場合

## 1 正常の場合

変化なし

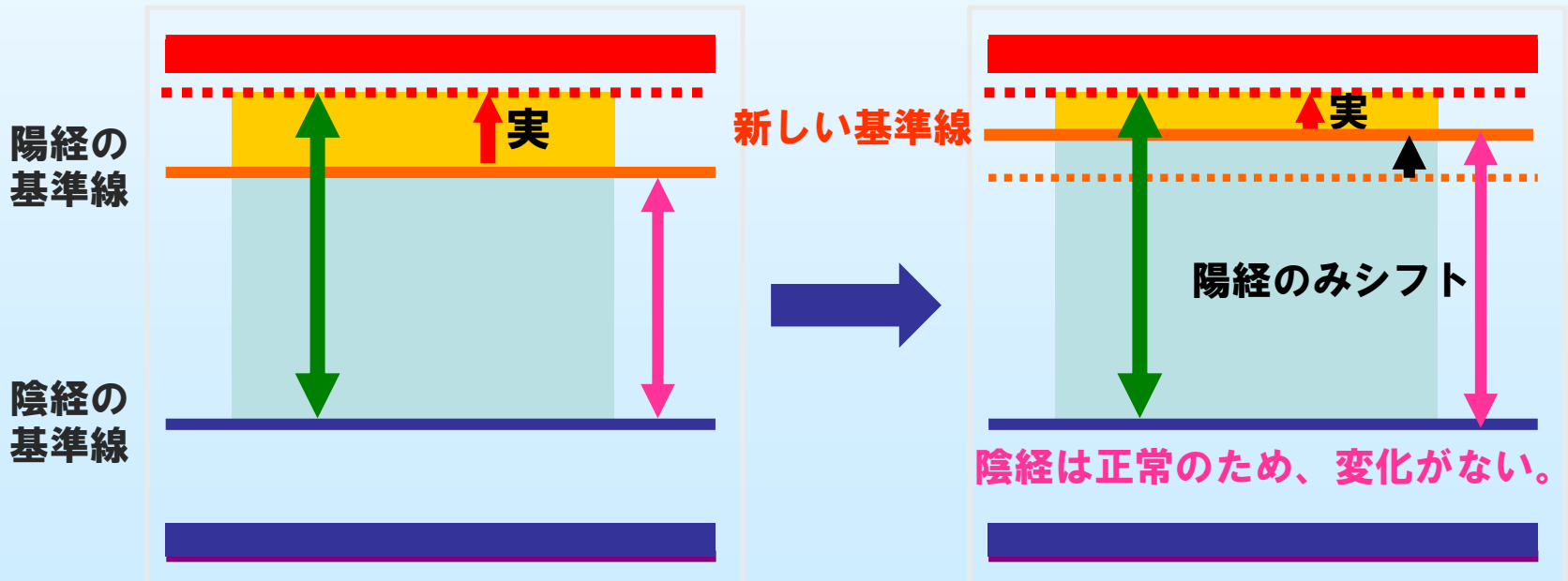


絡穴は押していてもライン間に直接の繋がりは無い

# B 輔される側の場合

## 2 「実」の場合

実は減少する

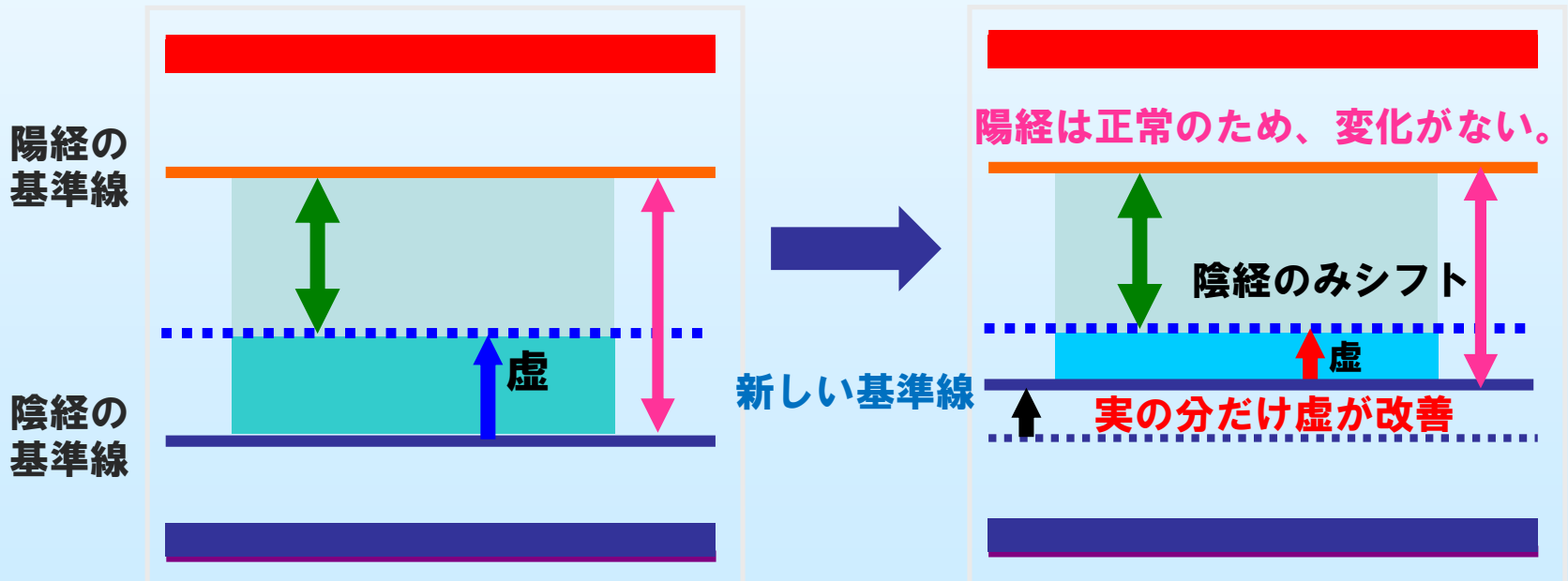


絡穴は押していてもライン間に直接の繋がりは無い

# B 輔される側の場合

## 3 「虚」の場合

虚は減少する

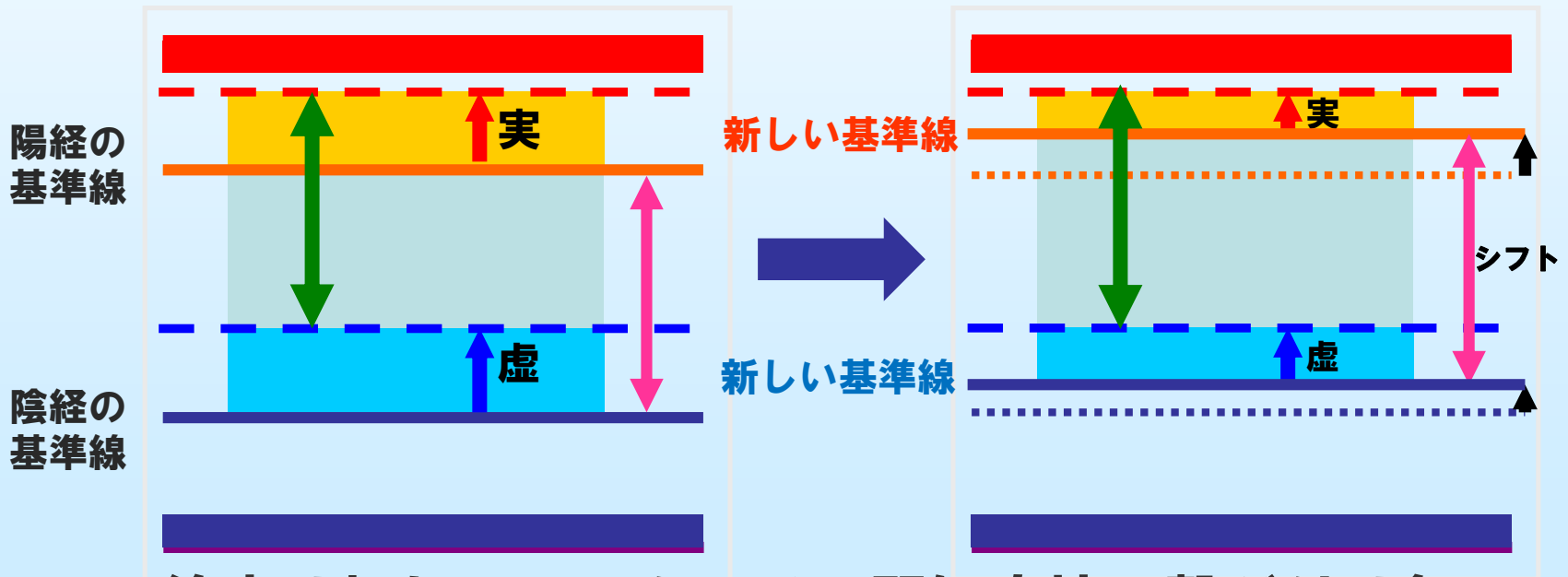


絡穴は押してもライン間に直接の繋がりは無い

# B 輔される側の場合

## 4 一方は「実」、一方は「虚」の場合

2と3の組み合わせから考えると、  
「実」と「虚」は両方とも改善する。

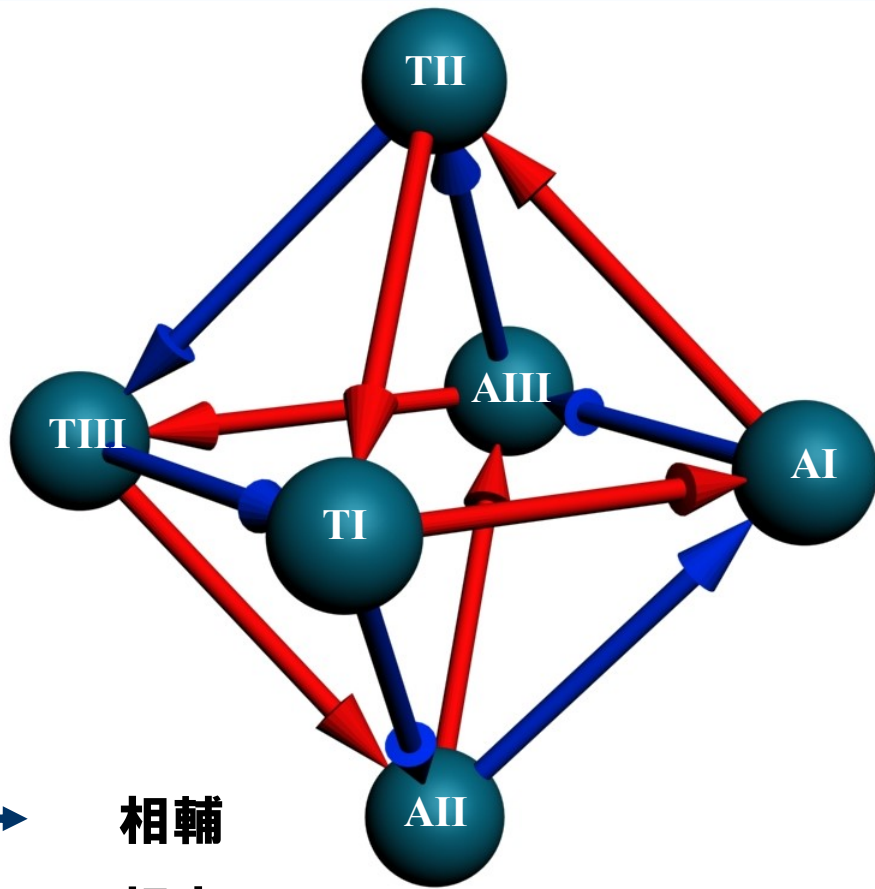




絡穴は押していてもライン間に直接の繋がりは無い

- **陰陽一方は実で一方は虚。**  
相輔の場合、陰陽の実と虚の症状は**改善**。
- **陰陽とも実。**  
相輔の場合、陰・陽の実症状は**改善**。
- **陰陽とも虚。**  
相輔の場合、陰・陽の虚症状は**改善**。

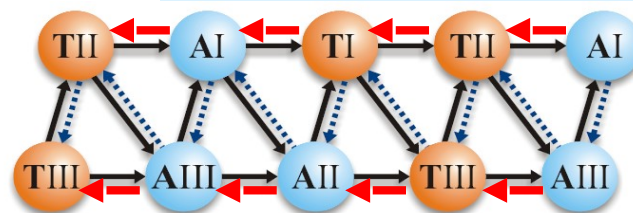
相 克

# 相輔・相克關係



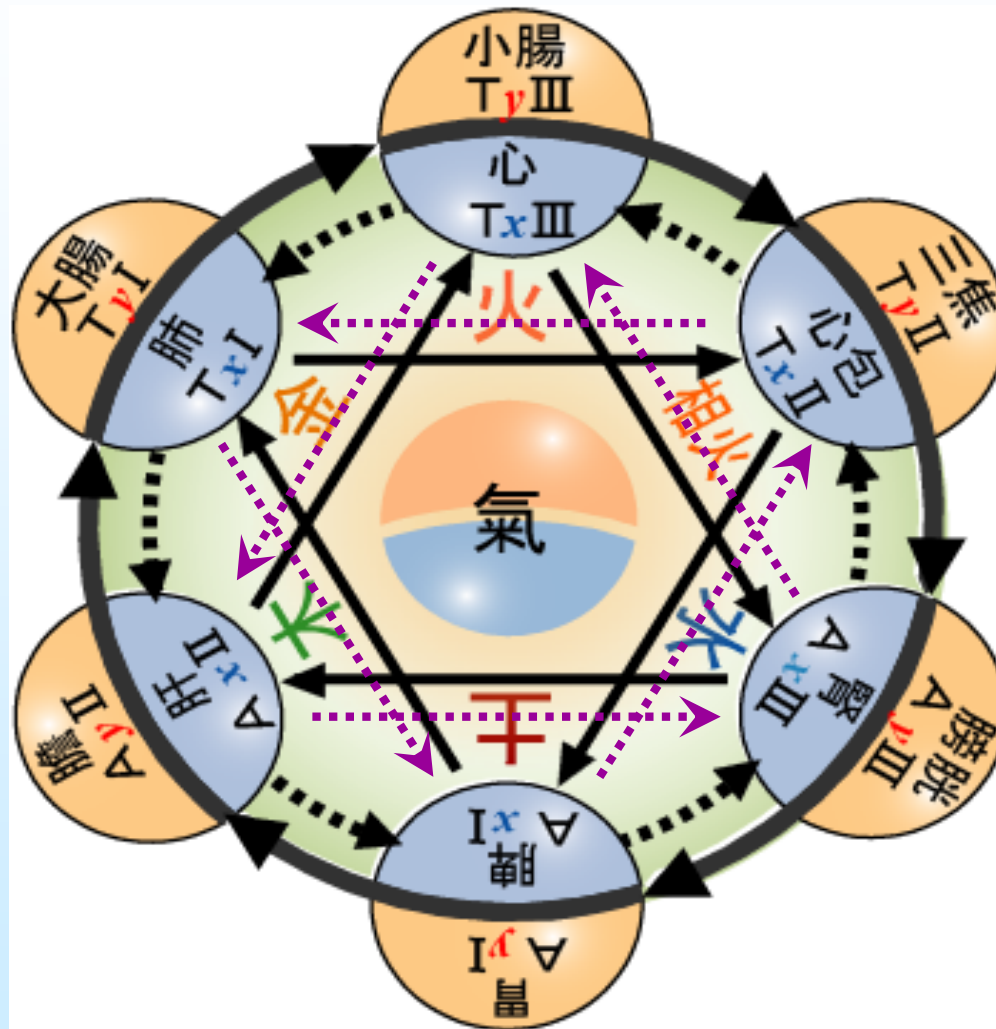
 相輔  
 相克

## 相輔・相克關係



記号表記

# 遠絡相生・相輔・相克關係圖





# 相克

**A** 克する側

**B** 克される側

# 相克

**A** 克する側

**B** 克される側

**A** と **B** がそれぞれ、

**1** 正常の場合

**2** 「実」の場合

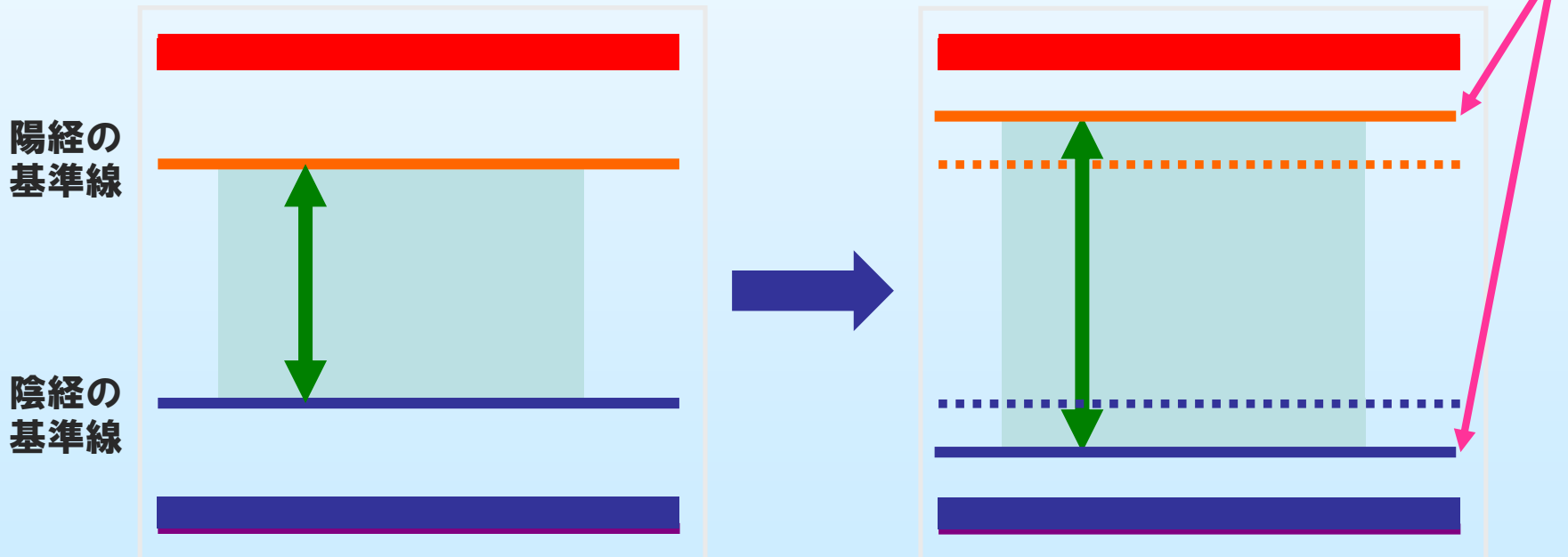
**3** 「虚」の場合

**4** 一方は「実」、一方は「虚」の場合

# A 克する側の場合

## 1 正常の場合

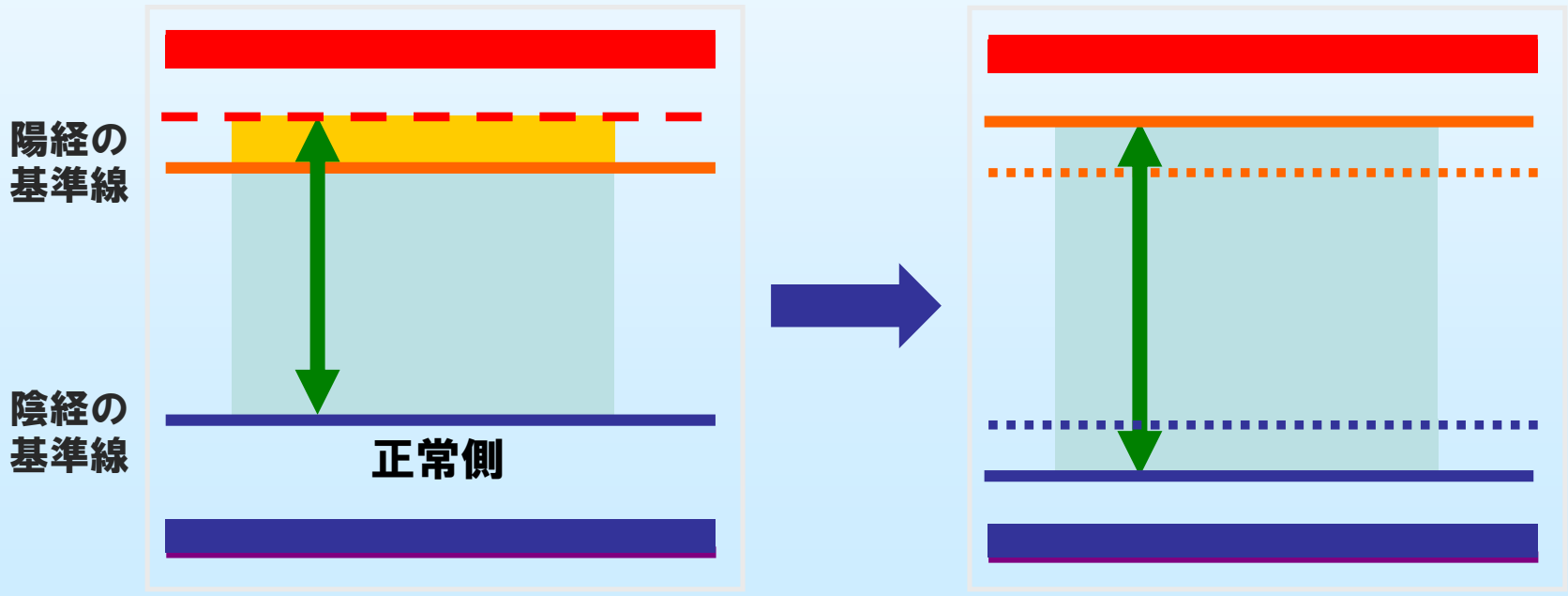
「陰」又は「陽」の絡穴を押しながら、  
その「陰」又は「陽」のF-pointを補す。  
→陰陽のラインが実側にシフトする。



# A 克する側の場合

## 2 「実」の場合

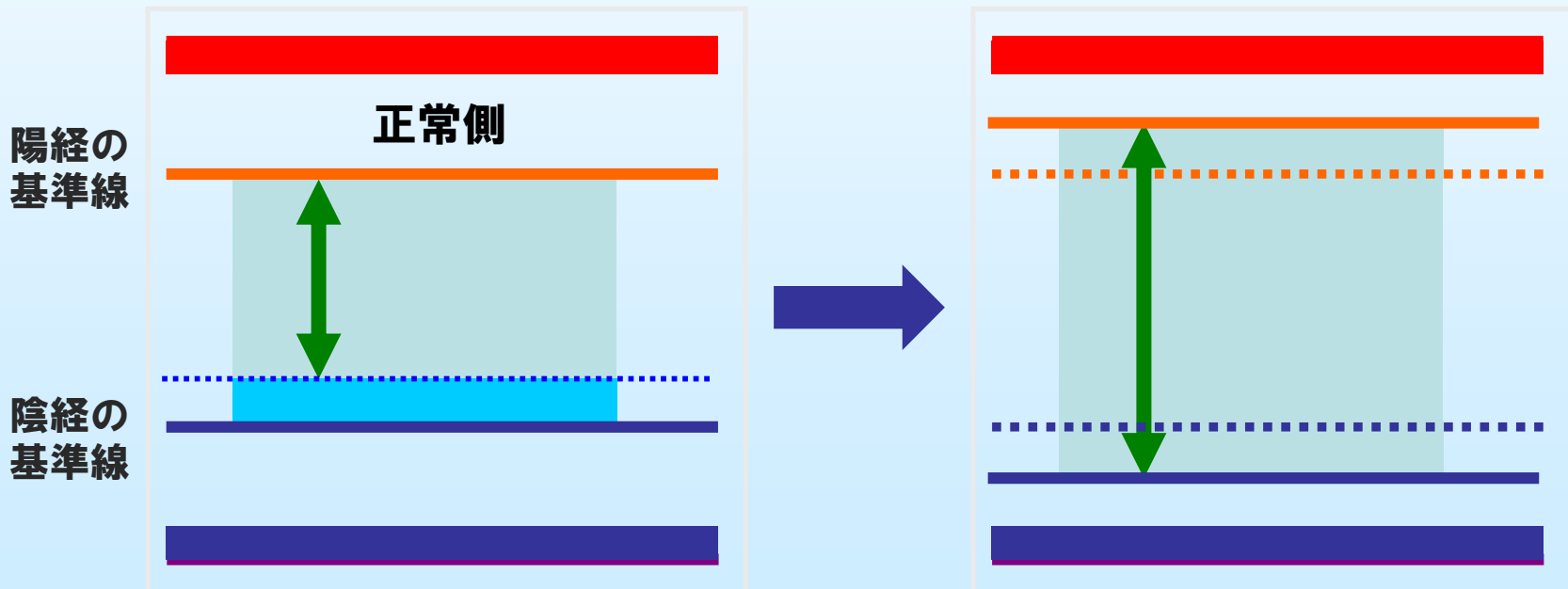
- ① 正常側の絡穴を押し、F-pointを瀉す。 → 実が無くなる。
- ② 正常側の絡穴を押し、F-pointを補す。 → ①と同じになる。



# A 克する側の場合

## 3 「虚」の場合

正常側の絡穴を押し、F-pointを補す。  
→ 輔し続けたら 1 と同じになる。



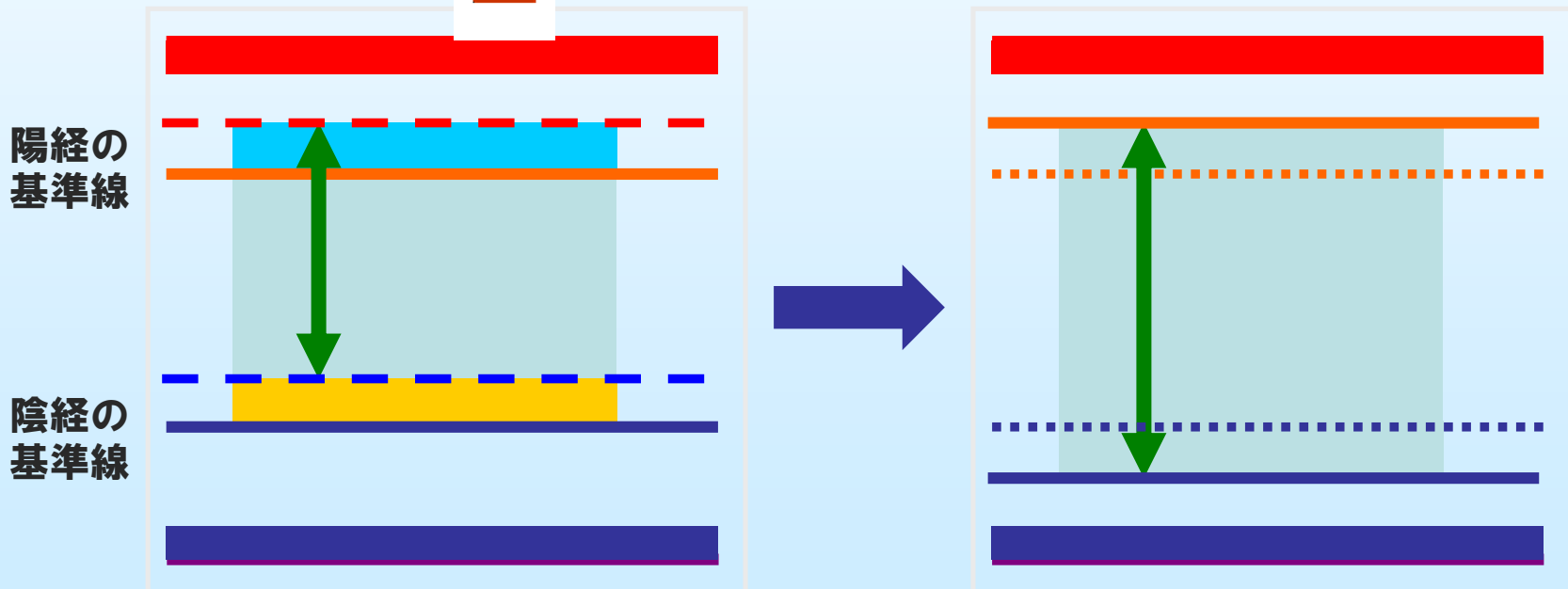
# A 克する側の場合

4

一方は「実」、一方は「虚」の場合

- ① 「虚」の絡穴を押し、F-pointを瀉す。
- ② 「実」の絡穴を押し、F-pointを補す。

→ 1と同じになる

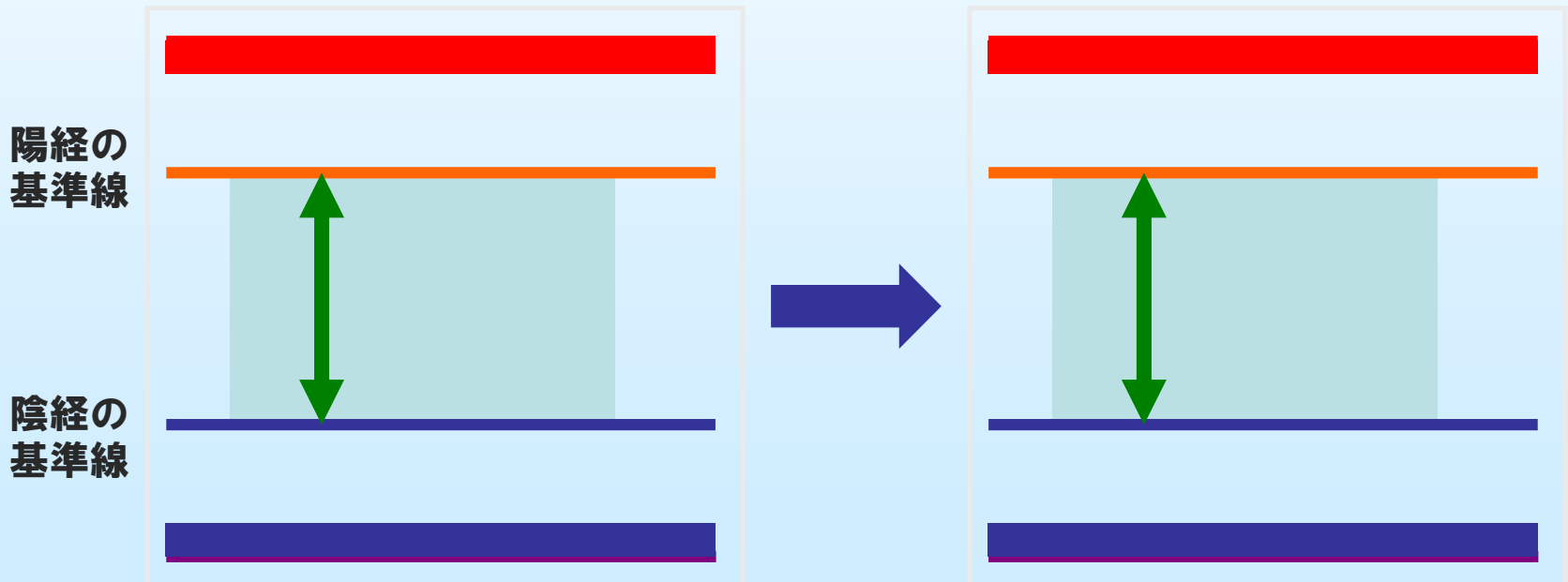


**克する側が増強する場合、  
克される側はどう変化するか。**

# B 克される側の場合

## 1 正常の場合

変化なし



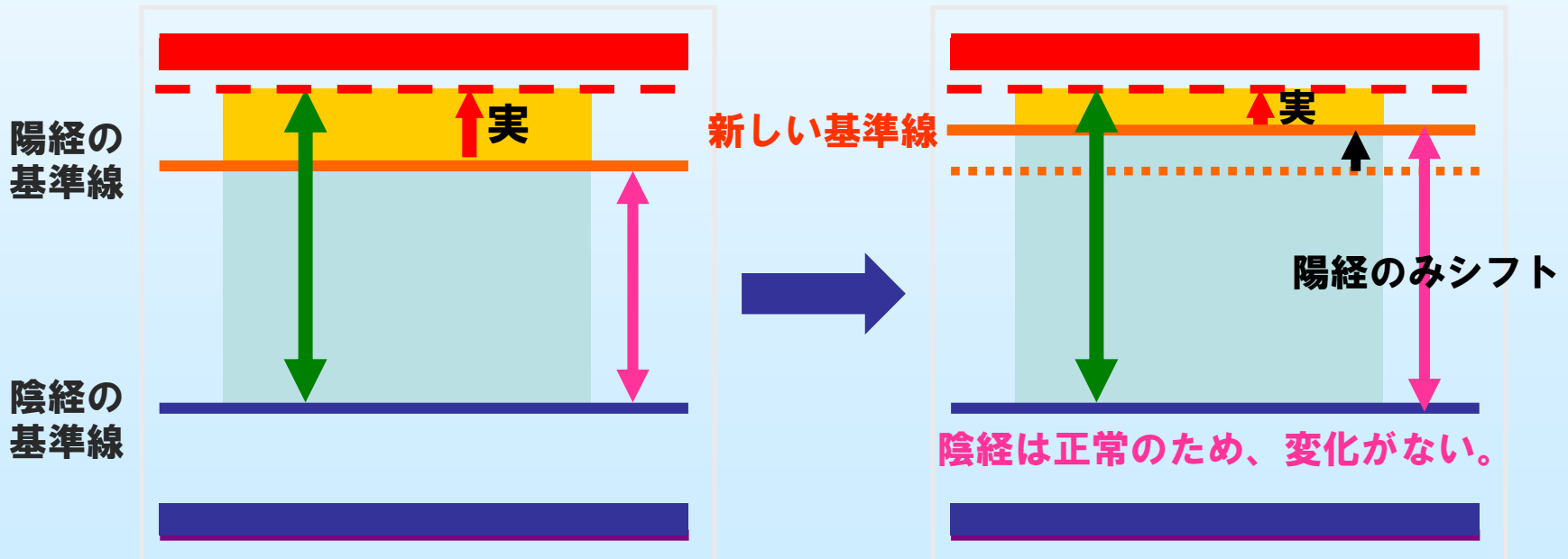
絡穴は押していてもライン間に直接の繋がりは無い



# B 克される側の場合

## 2 「実」の場合

実は減少する

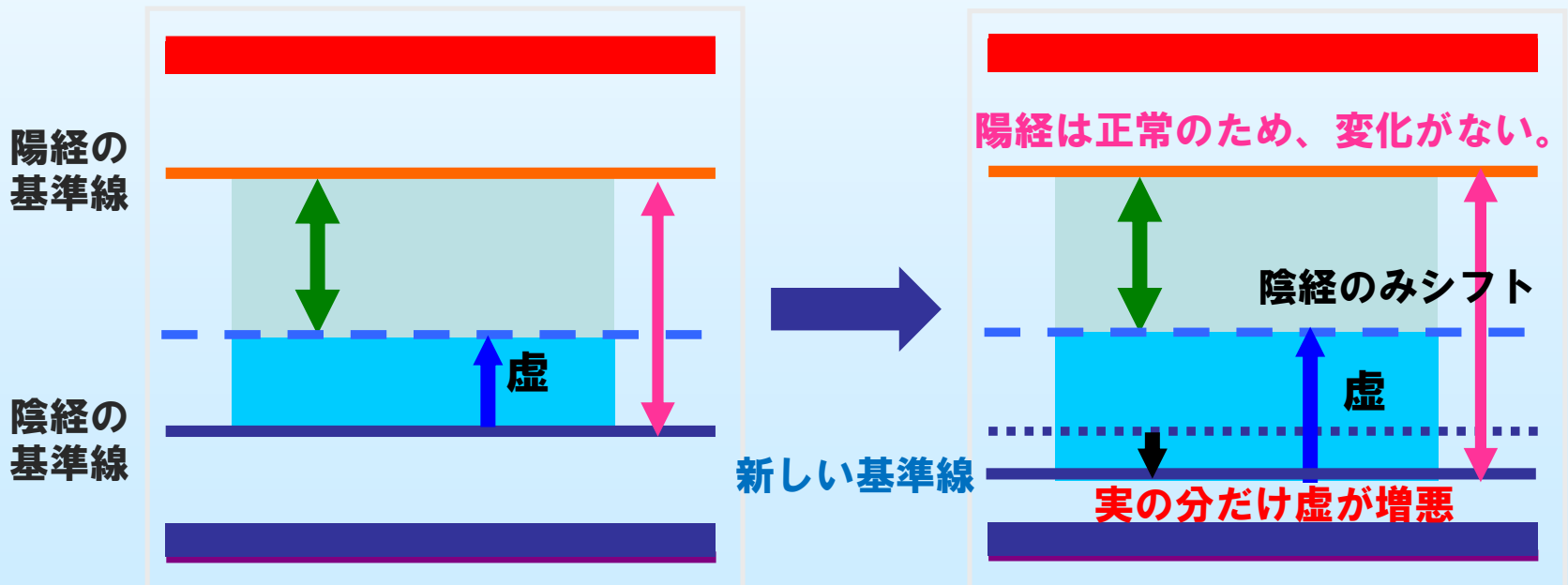


絡穴は押していてもライン間に直接の繋がりは無い

# B 克される側の場合

## 3 「虚」の場合

虚は増加する

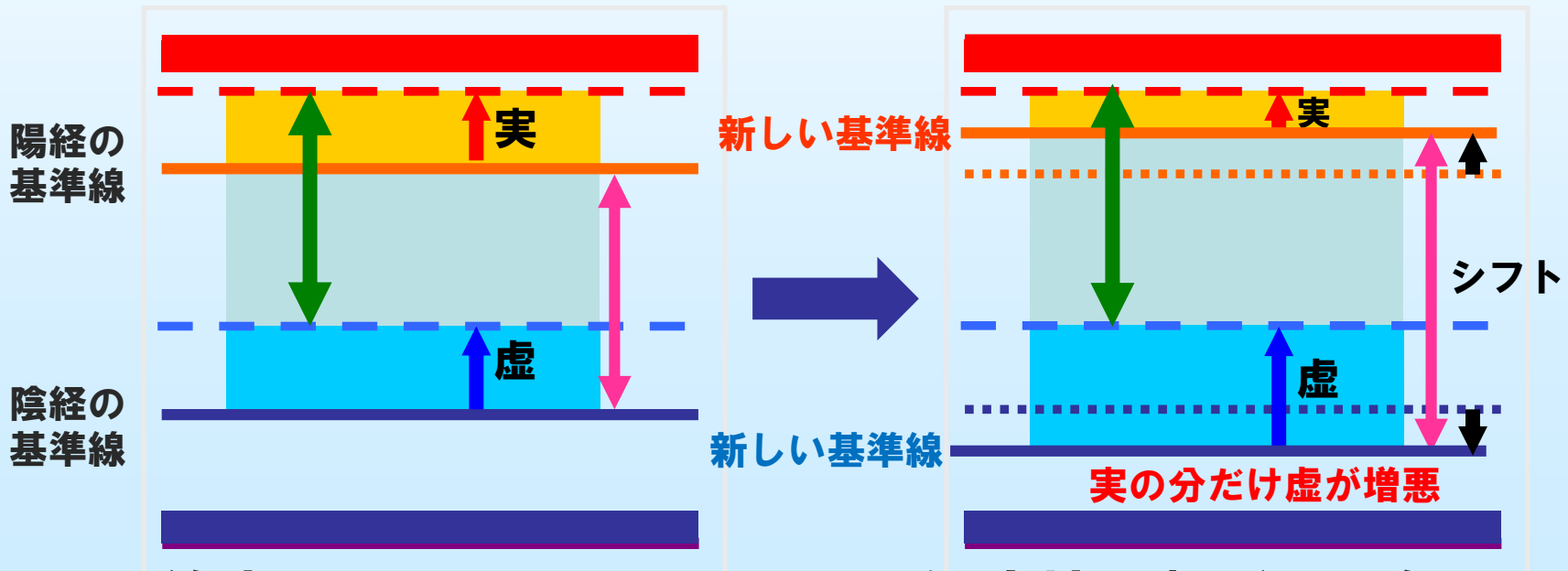


絡穴は押していてもライン間に直接の繋がりは無い

# B 克される側の場合

## 4 一方は「実」、一方は「虚」の場合

2と3の組み合わせから考えると、  
「実」は改善するが、「虚」は増加する。



絡穴は押してもライン間に直接の繋がりは無い

- **陰陽一方は実で一方は虚。**  
相克の場合、**実症状は改善。**  
**虚症状は増悪。**
- **陰陽とも実。**  
相克の場合、**両方とも実の方向へシフト。**  
**陰・陽の実症状は改善。**
- **陰陽とも虚。**  
相克の場合、**両方とも実の方向へシフト。**  
**陰・陽の虚症状は増悪。**

# 遠絡医学的 病態解析の進め方

# 遠絡八卦圖

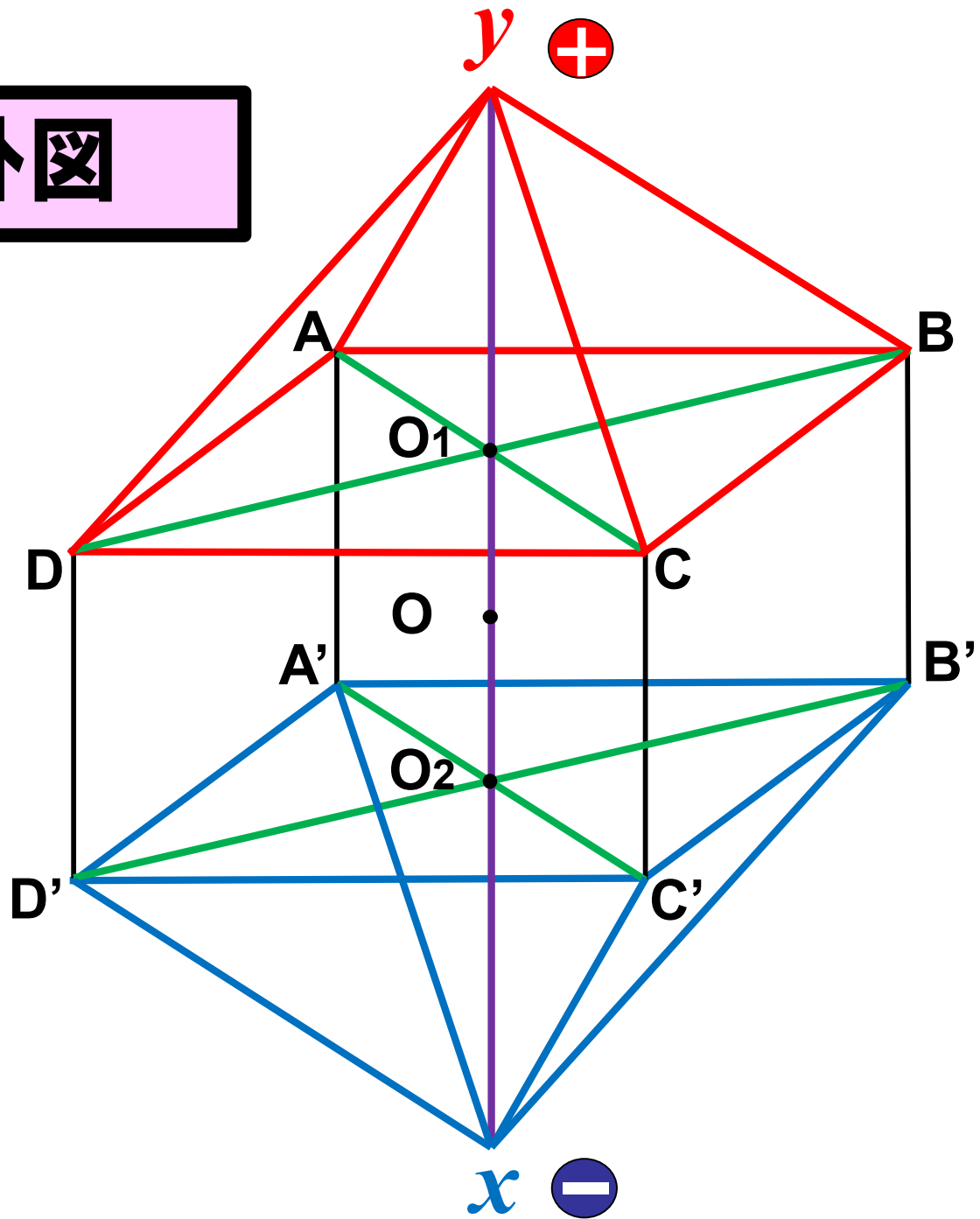
兩儀



四象



八卦



# 両儀と四象

## 両儀と四象の関係

### 相即関係 (例: yA)

相生: yx  
相輔: AC  
相克: DB

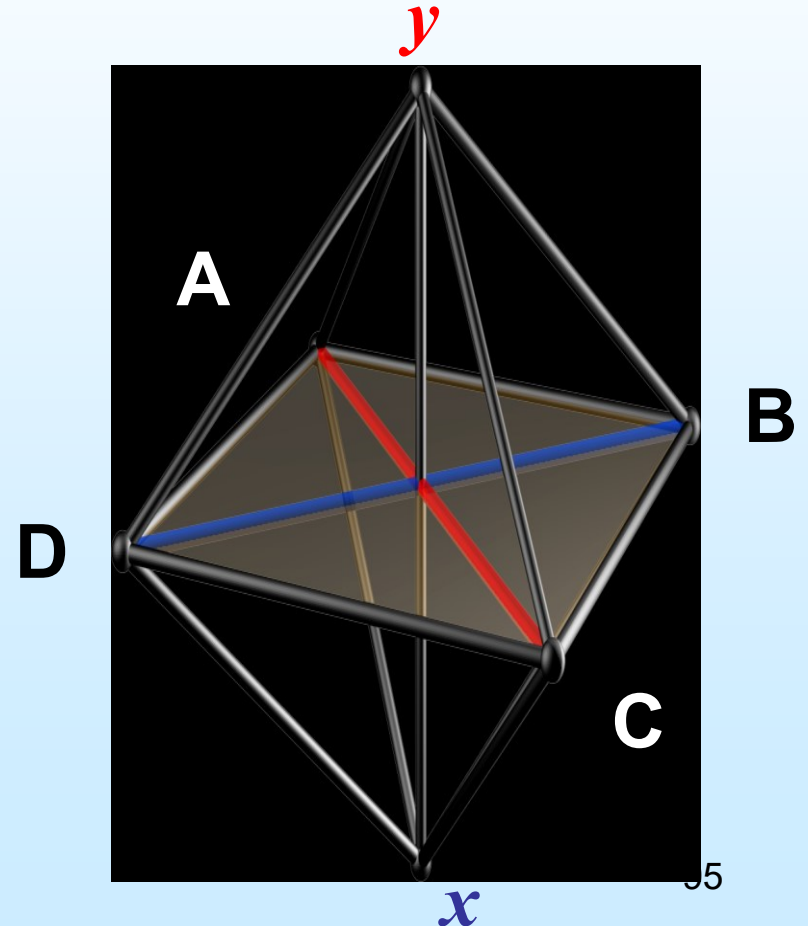
## 四象関係

### 相對相應関係 (例: AB)

2つの相對: AD(表裏)  
BC(臟腑通治)  
1つの相應: DC(遠絡同名)



6つの点 (縦に2点、横に4点)  
12本の線 (横に4線、縦方向陽面4線、  
縦方向陰面4線)  
8つの面 (縦方向陽面4、縦方向陰面4)



# 症状から診断の手順

## ① 点

局所

横方向の点 (Spinal Nerve - AI, TI, AIII, TIII)

横方向の線 (Spinal Nerve - AII, TII)

## ② 線

縦方向の線 (Spinal Cord - AI, TI, AIII, TIII)

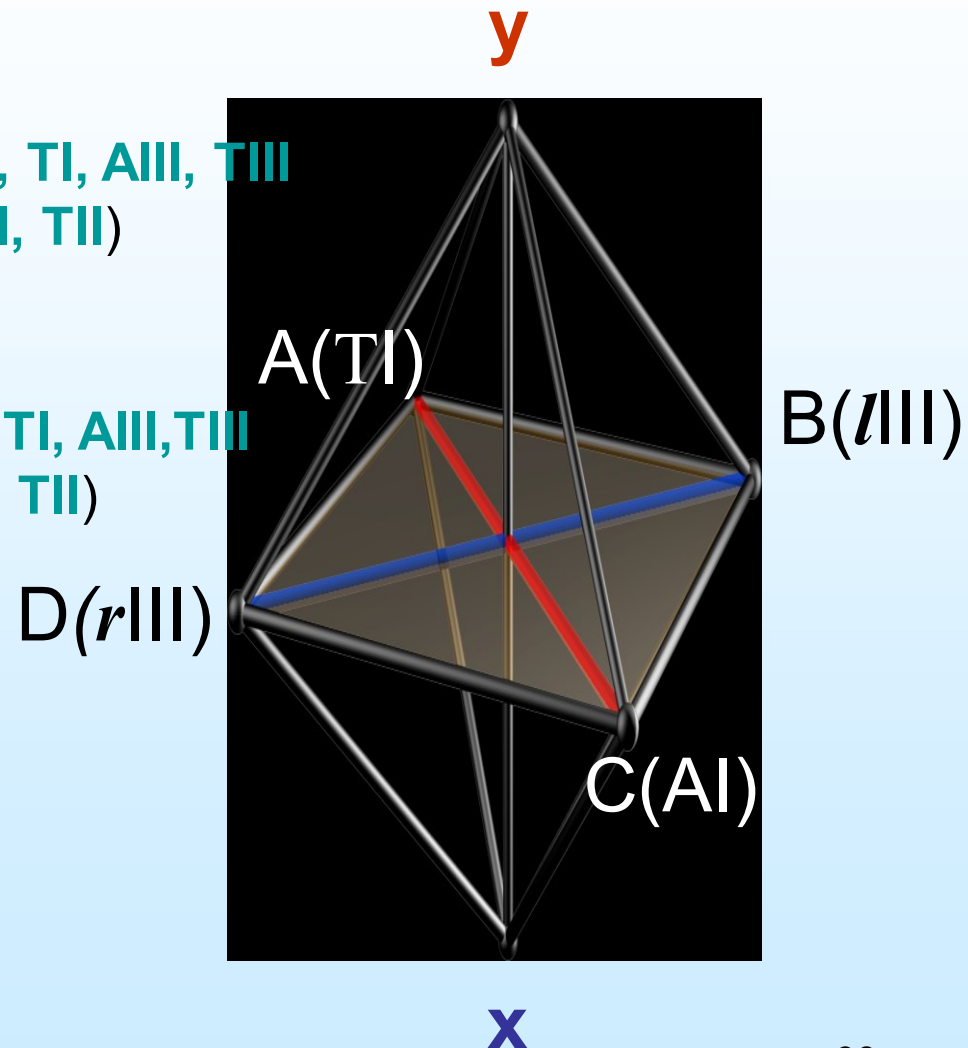
縦方向の点 (Spinal Cord - AII, TII)

縦方向の点と線 (Regional)

## ③ 面

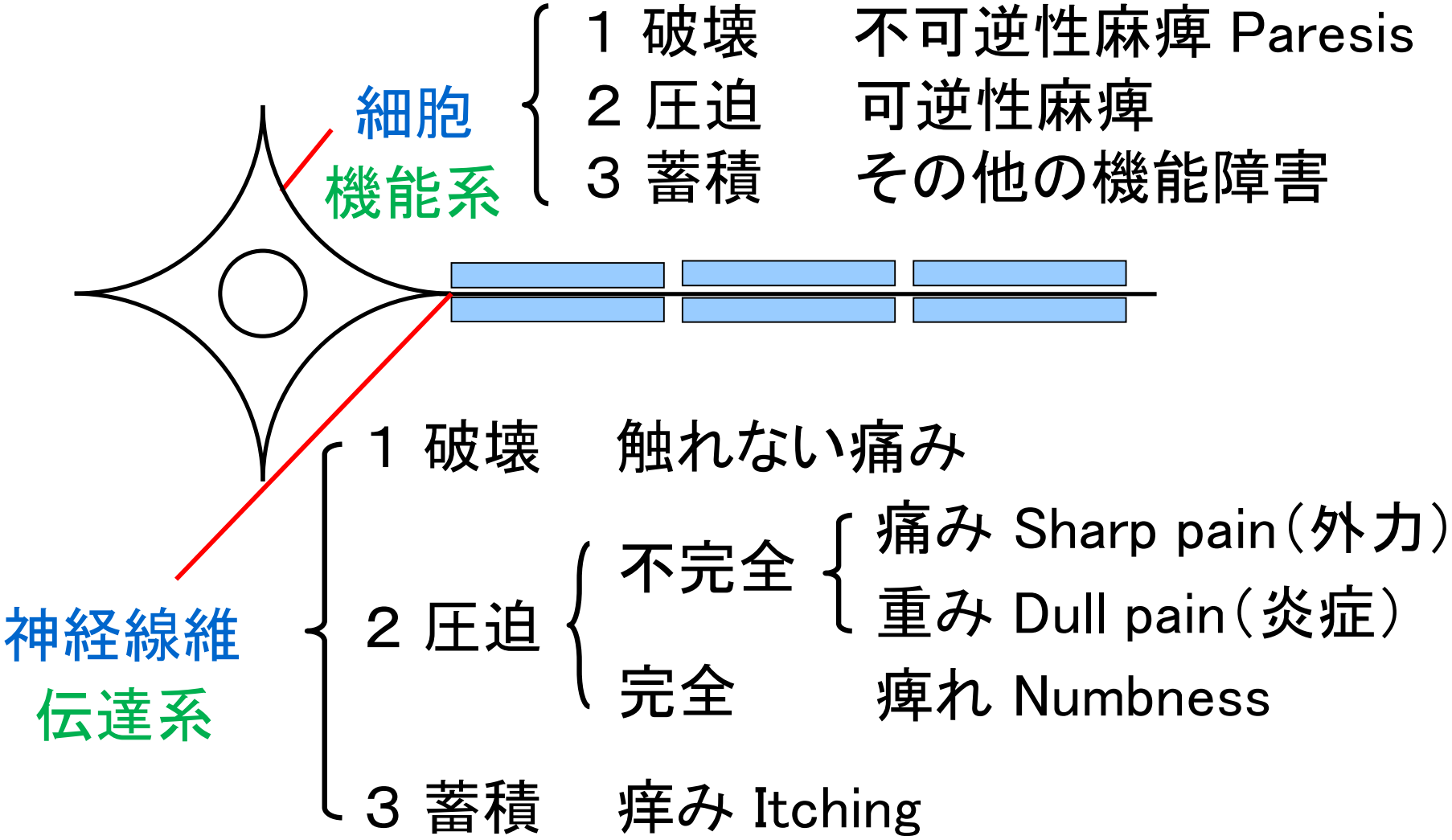
上位脳 (同側手足)

下位脳 (両側手または足)





# 神経単位と症状の対比分類



# 症状から診断の手順

① 局所性

② 中枢性

# 局所性

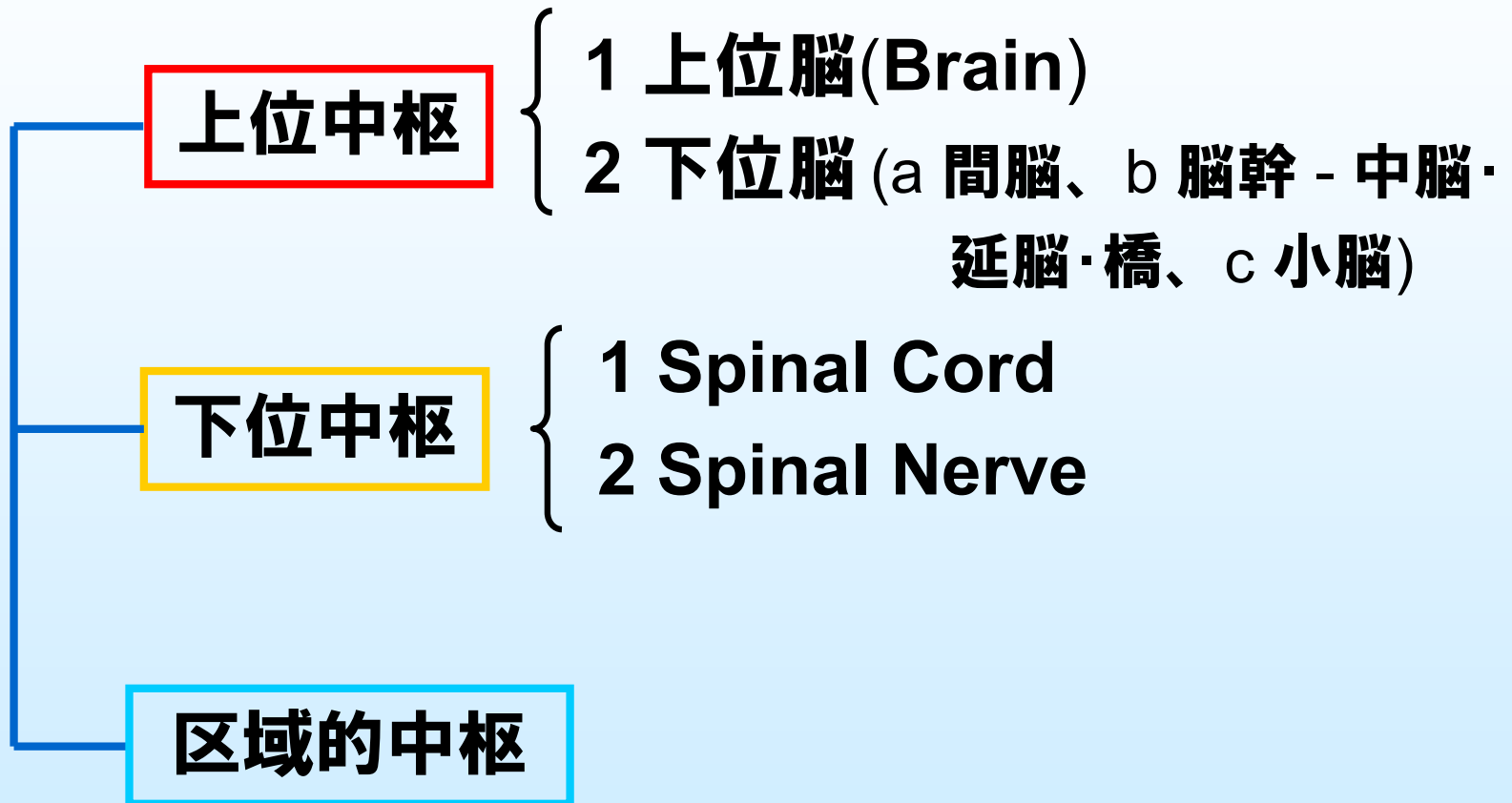
## 特徴

- (1) 痛みは片側性で、痛む原因が明確。**
- (2) 痛みの場所は特定できる。**
- (3) 痛みの発生に伴い、炎症が起こる。  
(腫れ、痛み、発熱など)**
- (4) 四肢の痛みや重み、痺れなどの合併症状がない。**

# 中枢性 分類



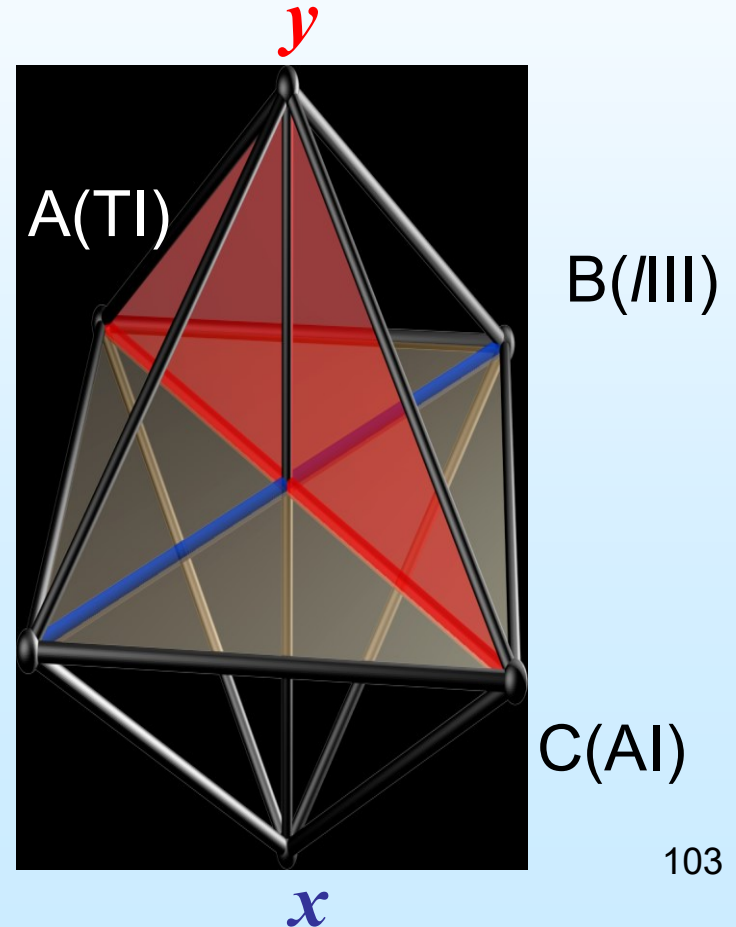
# 中枢性 分類



# 上位中枢

# 上位脳

6つの点 (縦に2点、横に4点)  
12本の線 (横に4線、縦方向陽面4線、  
縦方向陰面4線)  
8つの面 (縦方向陽面4、縦方向陰面4)



無極

太極

兩儀

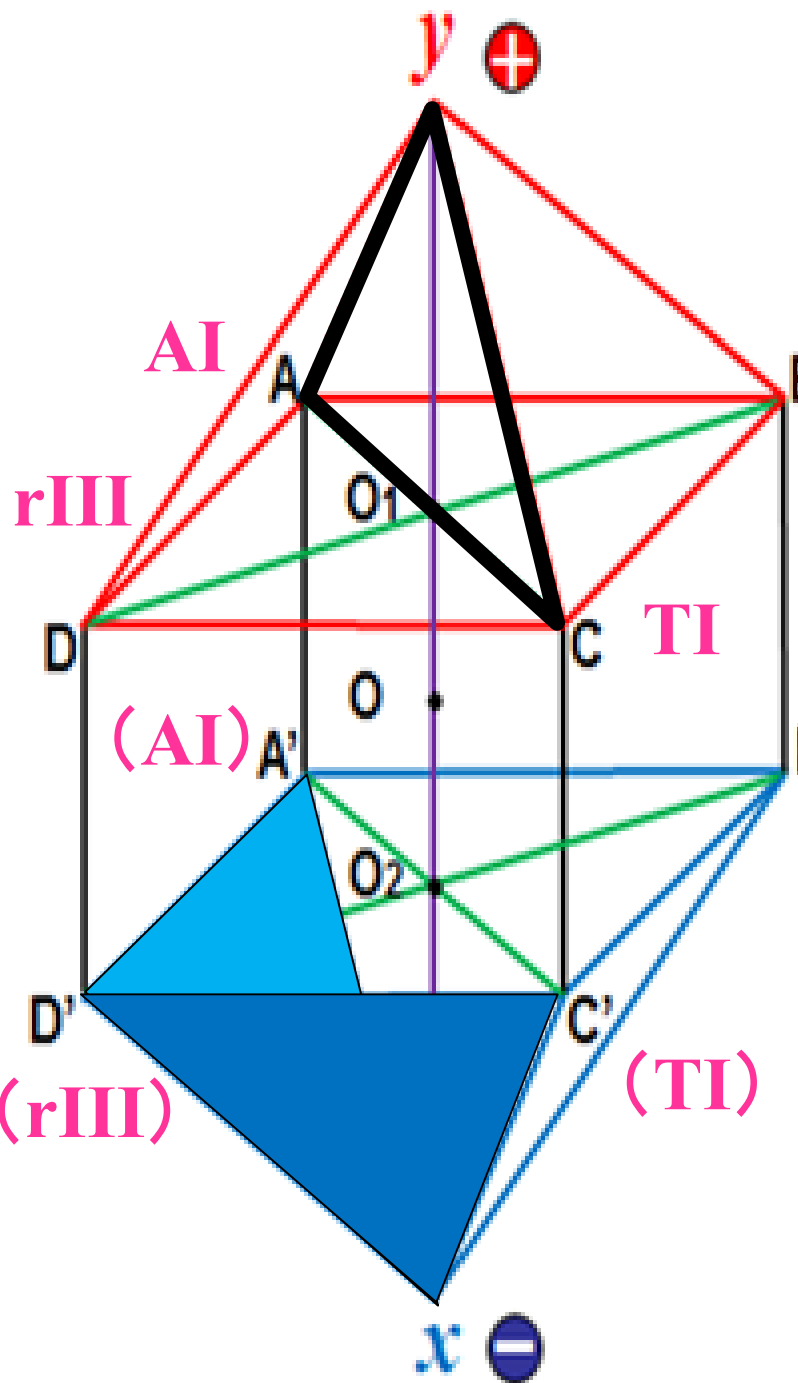
四象

八卦

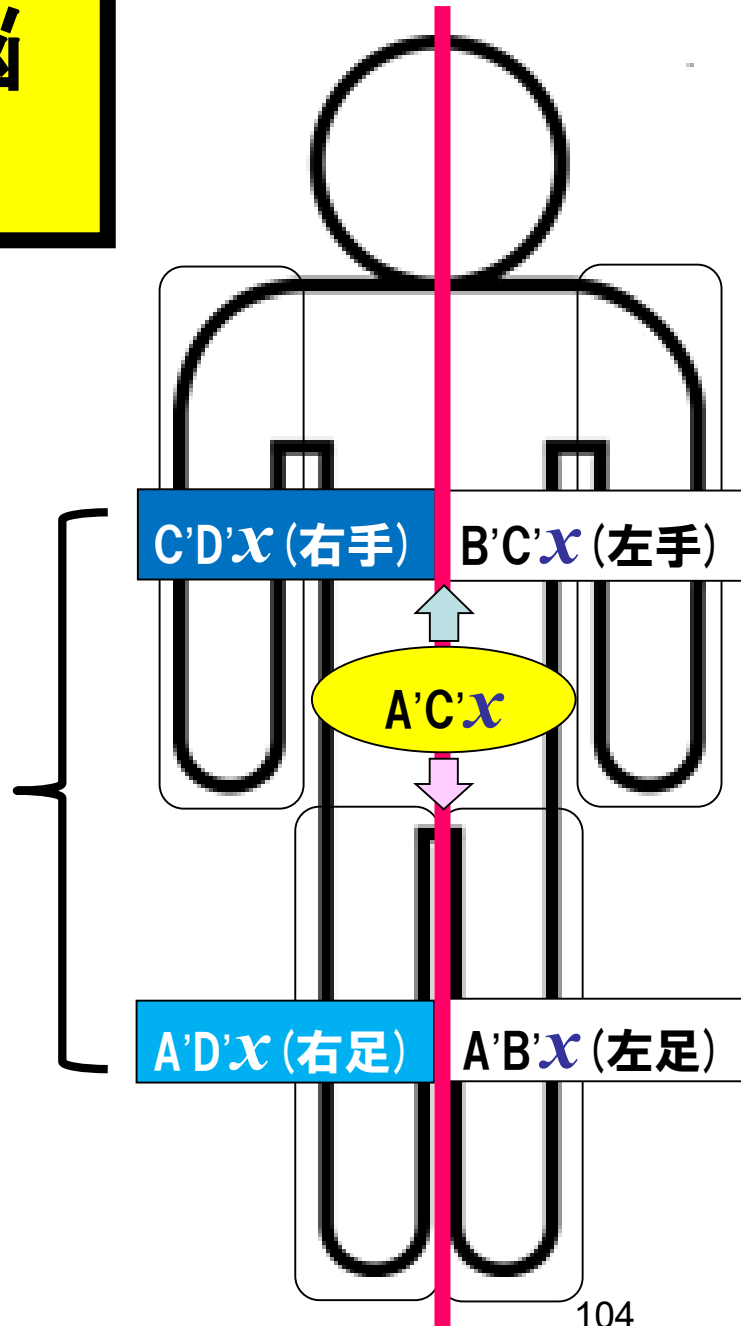
上位脳 (面yAC)

面xDAと面xDC  
面xBAと面xBC

上位脳  
 $yAC$



同側上下肢の症状





# 下位脳

無極

太極

両儀

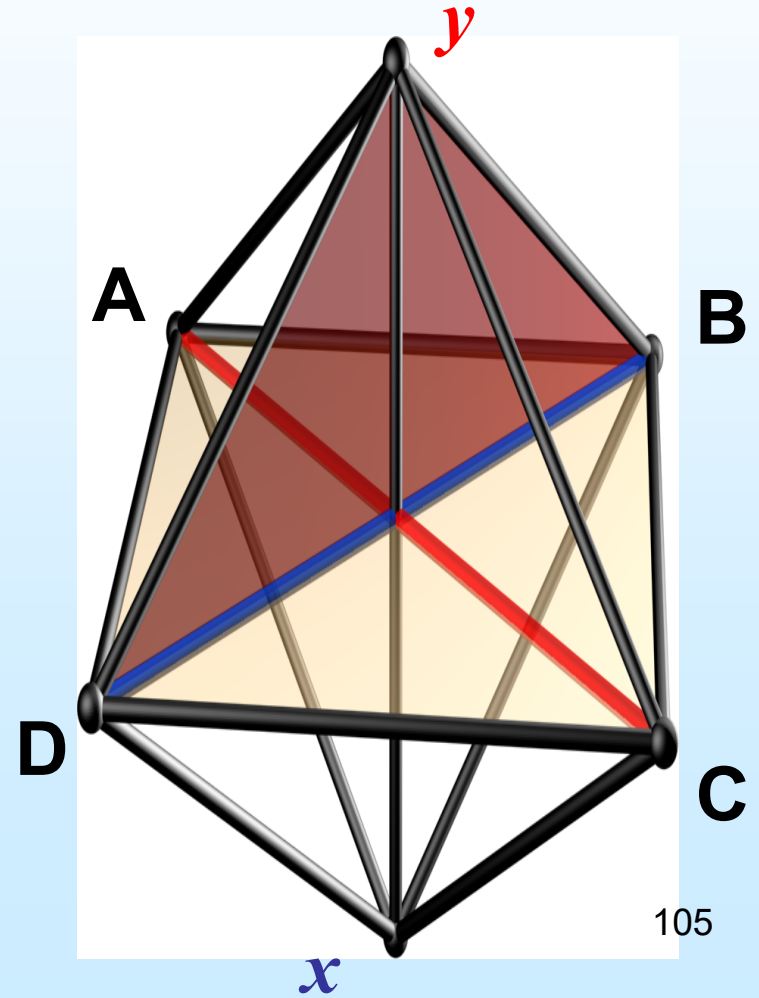
四象

八卦

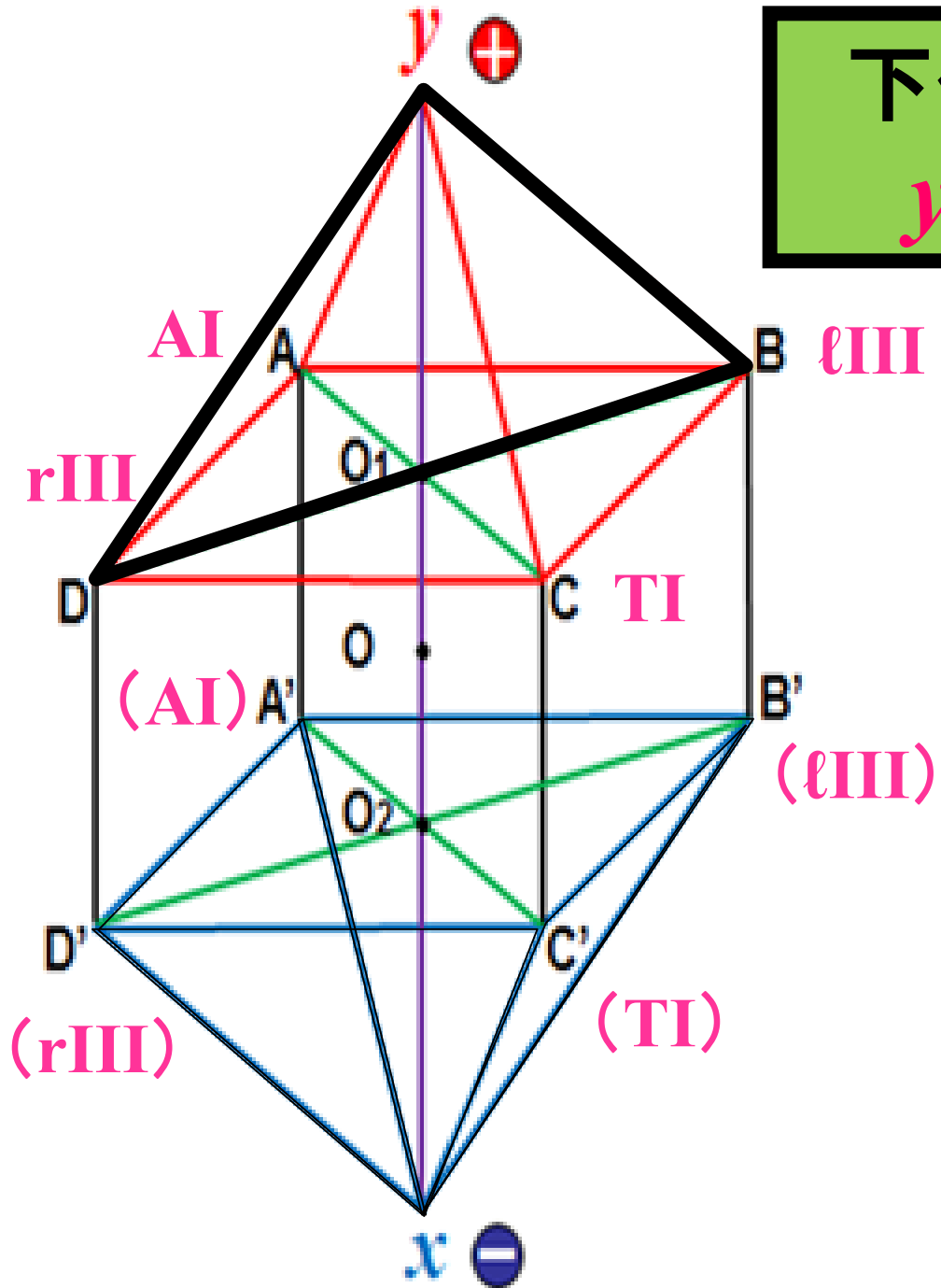
6つの点(縦2、横4)  
12本の線(横4、縦陽4、縦陰4)  
8つの面(縦陽4、縦陰4)

下位脳 (面yDB)

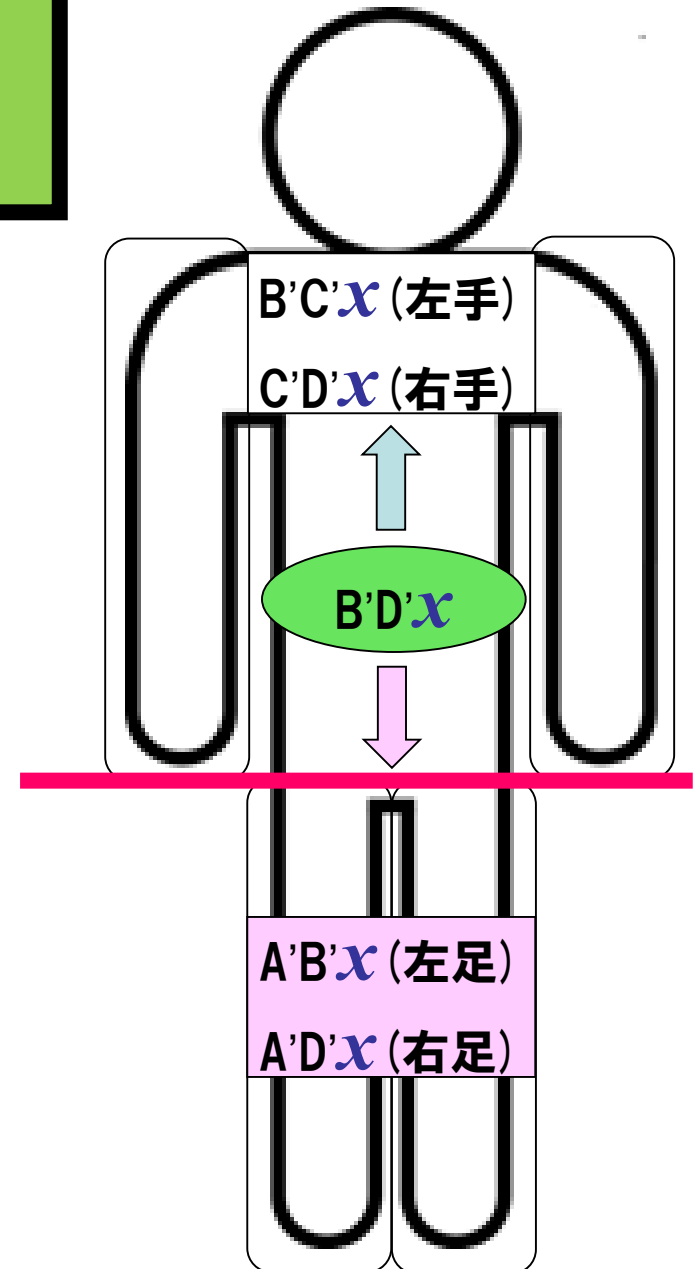
面xDCと面xBC  
面xBAと面xDA



下位脳  
yBD



両上肢又は両下肢の症状



# 下位中枢

# Spinal CordとSpinal Nerve

## Spinal Cord (縦方向線の関係)

$$yO \leftrightarrow \left\{ \begin{array}{ll} yA & xA \\ yB & xB \\ yC & xC \\ yD & xD \end{array} \right\} \leftrightarrow xO$$

## Spinal Nerve (横方向点の関係)

$$\left. \begin{array}{l} \text{点A} \\ \text{点B} \\ \text{点C} \\ \text{点D} \end{array} \right\} \leftrightarrow \text{点O}$$

無極

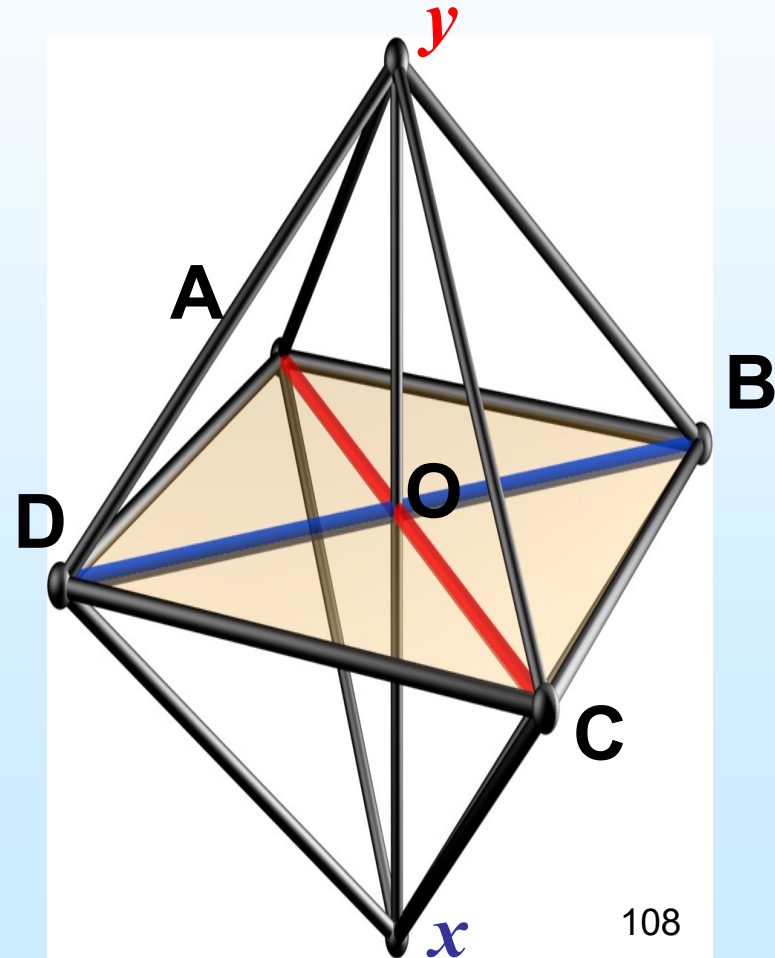
太極

兩儀

四象

八卦

6つの点(縦2、横向)  
 12本の線(横4、縦陽4、縦陰4)  
 8つの面(縦陽4、縦陰4)



# 遠絡八卦圖

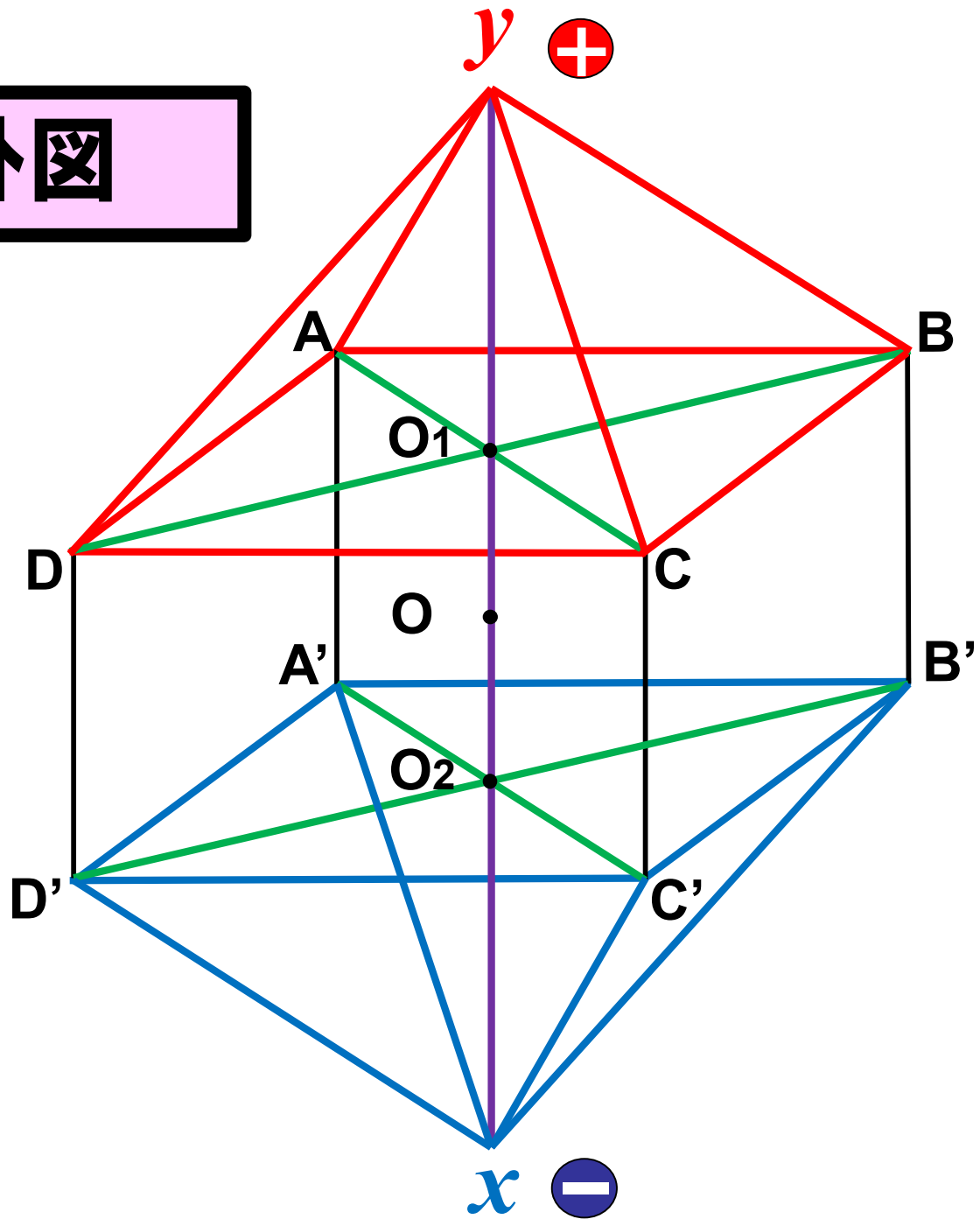
兩儀



四象



八卦



① 点

局所

横方向の点 (Spinal Nerve - AI, TI, AIII, TIII)

横方向の線 (Spinal Nerve - AII, TII)

② 線

縦方向の線 (Spinal Cord - AI, TI, AIII, TIII)

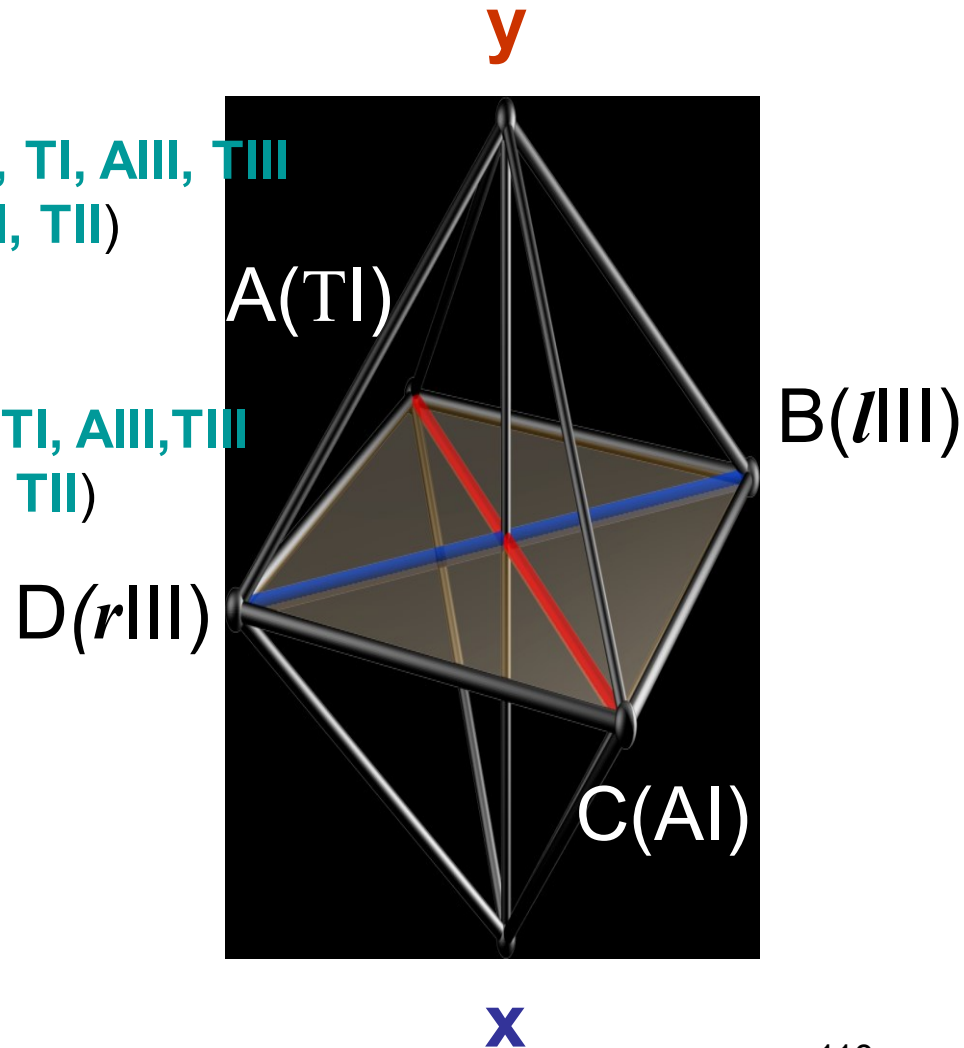
縦方向の点 (Spinal Cord - AII, TII)

縦方向の点と線 (Regional)

③ 面

上位脳 (同側手足)

下位脳 (両側手または足)



c+d

bc

a

bc

a

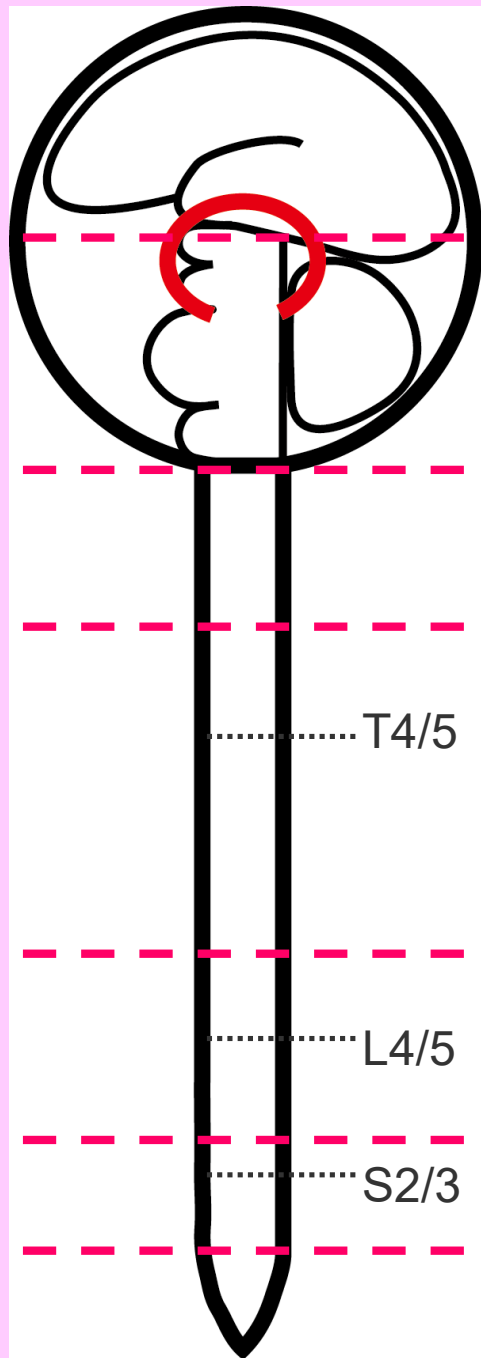
bc

c+d

bc

c

c



上位脳

視床

下位脳

C1 atlas

C-spine

C7 / T1

T4/5

T-spine ~ L2

L2 / 3

L4/5

L3 ~ S1

S2/3

S2 ~ S5

尾椎・陰部